

学内広報

for communication across the UT



特集記事：

「バリアフリーの東京大学」
の実現に向けて（Ⅱ）

2006.6.14

No. 1338

1329号の特別記事では、バリアフリー支援室の様々な活動についてお伝えしました。その後も、支援室は「本郷支所設置」、「知的障害者の積極的雇用推進」など活発な取組を展開しています。そこで、今回は「雇用」と「支援」に関して、新たに開始された活動をご紹介します。本学は「バリアフリーの東京大学」の実現に向けて着々と歩を進めています。

知的障害者の環境整備チーム活動中！

本郷では、この4月から知的障害のある職員(スタッフ)が、コーディネーターと共にキャンパスの清掃に従事しています。すでに1336号で施設部保全課環境整備チームの発足についてはお伝えしてありますが、今回はコーディネーターやスタッフの肉声をお伝えします。



チームは5月26日、小宮山宏総長から激励を受けました。まず、いつもは環境整備チームの控え室で行っているミーティングを総長室で行いました。総長室での歓談後は、総長と一緒に構内に出て、赤門付近で清掃作業を行いました。

暑い日も雨の日も環境整備チームは「ゴミ清掃のプロフェッショナル」として活動中です。読者の皆様の応援を是非、お願いします。

コーディネーターからのメッセージ 渡邊福治・矢作和子

学生、教職員の皆さん、ブルーの帽子と腕章を着け、竹ぼうきとちり取りを持って本郷キャンパスを清掃している人たちを見かけたことがありますか。そうです。この人たちが東京大学がこの4月から職員として雇用し、クリーンなキャンパスを目指す、障害を持つ勇士の一団であります。正式には「施設部保全課環境保全チームスタッフ」です。

スタートして2ヶ月が過ぎた今、キャンパスがきれいになったと、あちこちから聞こえてきます。それは当然のことです。なぜならスタッフ戦士は、「ゴミ清掃のプロフェッショナル」になることを合言葉に、個人とチームで責任をもって仕事を行い、大学で学び働く人が気持ちよい環境で、勉強や仕事ができるようにすることを目標に全力を傾けているからです。



左から渡邊さん、小宮山総長、矢作さん

しかし、戦士にも不満があります。それは自転車、バイクの無秩序なため方、分別していないゴミ類の投入や放置、投げ捨て、OA機器やビニール傘、タバコの吸殻のポイ捨て、放置などが、たくさんあるということです。これらの行為は作業に支障をきたすばかりでなく、そもそもキャンパスの環境を汚し、こわすものです。

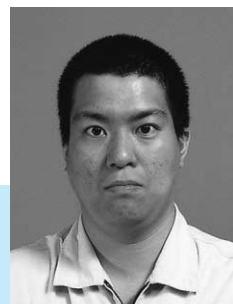
コーディネーターは、クリーンなキャンパスを目指す戦士が働く喜び、給料がもらえる喜び、生きる喜びを育むよう、一丸となって仕事を進めています。そうした願いを実現するためには、本学で学び働く皆さんの協力と応援が必要不可欠です。知と技の連携で、日本一クリーンなキャンパスを本学で実現したいものです。

スタッフからの メッセージ



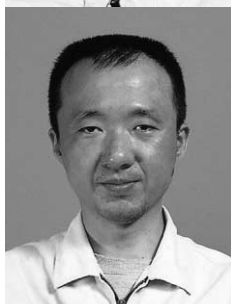
落合盛太

東大は広くて、清掃が大変です。安田講堂、三四郎池、赤門、正門、本郷通り、図書館前、バス停を掃除しています。



片寄英一

自分で仕事をしてがんばっています。東京大学は全体が広いです。タバコを捨てないでください。自転車のスピードを落としてください。



北沢 聡

ぼくはゴミの回収と分別をしています。掃除のほかには、理学部図書館で本の整理とラベル貼りをしています。スタッフルームでは、トイレ掃除をしています。軍手洗いもしています。



木下光洋

最初は緊張しましたが、だんだんと慣れてきました。みんなといっしょに働いて、すごい汗をかいて気持ちよかったです。



高橋裕

自分は4月から東大の清掃の仕事について、落ち葉掃除は大変でしたが、やりがいのある仕事だと思いました。一番困るのは、タバコがやたらにあっちこっちに落ちていることです。タバコは吸殻入れに捨ててください。



波多野義明

掃除が終わって、給料をもらいました。パリの旅行に行きたいと思っています。



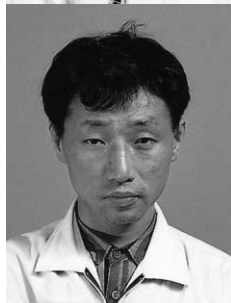
濱田龍太郎

お金ももらってとても嬉しいです。犬の糞を捨てないでください。また、自転車はきちんと駐輪してください。



早川健太

東大の中はとても広いので、とても大変です。赤門、正門、弥生門と3ヶ所回っています。とても大変だけど、分別のほうは簡単に早くできるようになりました。



森田建一

葉っぱを拾う仕事をしています。タバコの吸殻のごみが多くて大変です。タバコを捨てないでください。



吉村忠彦

自分は東大の清掃の仕事について、1ヶ月ちょっとたちます。掃除の仕事を自分ではきちんとやっているつもりです。これからも一生けんめい仕事がんばって、みんなと仲良く、楽しい職場にしたいです。困っているのは、ゴミの分別がきちんとされていないことです。特にコンビニで買ったお弁当や、お茶のカンやタバコの投げ捨てをやめてもらいたいです。

ヘルスケアルーム、オープン！

保健センターではこの度、学生及び教職員の健康増進・福利厚生の一助として保健センター駒場支所にヘルスケアルームを開設し、ヘルスキーパー(※)によるマッサージの提供を行うことになりました。

東京大学として初の試みとなりますヘルスケアルームをぜひご利用ください。



※ヘルスキーパーとは・・・

一般的に、企業等の施設内に設けられたマッサージ室で疲労その他の症状緩和を図るため、マッサージを行う有資格者を言います。

今回開設された東京大学内のヘルスケアルームでは、按摩マッサージ指圧師免許取得者である視覚障害者がヘルスキーパーとして施術を行います。

問い合わせ：保健センター駒場支所（内線46481）

利用案内

設置場所 駒場キャンパス内 保健センター駒場支所（2階）

利用者 本学の学生・教職員。ただし教職員は、休憩時間、勤務時間外または年次有給休暇を取得の上で利用頂けます。

利用方法

- 電話（内46481）による予約制で、同一人は週1回を限度として利用できます。
- 申込は翌週分を前週の月曜以降に受け付け、空いている場合は当日でもお受けします。
- やむを得ずキャンセルする場合はできるだけ早めにご連絡をお願いします。

利用料金 時間帯にかかわらず1回500円（現金）といたします。1回40分。（昼は20分。注参照）

支払方法 利用前に駒場支所事務室（1階）で支払いをお済ませください。

時間 月曜日～金曜日（祝日は除く）の10時20分～16時40分

時間帯

	午 前		午 後
1	10:20～11:00	3	12:20～12:40
2	11:20～12:00	4	13:00～13:40
		5	14:00～14:40
		6	15:00～15:40
		7	16:00～16:40

注)

「3（12:20～12:40）」の時間帯は職員優先とし、所要時間は20分となります。（利用料金は変わりません。）



ヘルスケアルームに勤務している渡辺旭です。今の自分の目標はこのマッサージルームを皆さんに知ってもらい、来ていただき、身体をほぐすだけでなく、「保健室のおばちゃん」的な、何でも話することができる雰囲気作りと、ゆったりうっとりできる心身ともに癒せる空間を作っていくことです。皆さん是非お越しください。

ヘルスキーパーからの一言

はじめまして。ヘルスケアルームの大楽スミヨと申します。私の所属しているところは、5月15日にスタートしたばかりのマッサージルームです。仕事に勉強に励んでおられる皆様が肩の凝りや眼の疲れを感じたときに、マッサージを受けて見ませんか。きっとリフレッシュできます。私たちは少しでも皆様に喜んでいただけるよう努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



障害者雇用の新しい取り組み —雇用率を超えて—

先端科学技術研究センター 領域創成・バリアフリープロジェクト 中邑賢龍

1. 大学における障害者雇用の課題

東京大学における障害者雇用の推進は他大学の先駆けとなる試みで注目を集めています。しかし、大学における障害者雇用はまだ始まったばかりであり課題も山積しています。障害者雇用を安定した長期的な取り組みとしていく上では、個々の問題解決を図ると同時に、新しい試みを始めていく必要があります。

- (1)常用雇用の難しさ:法定雇用率達成のための雇用では常用雇用（1週30時間以上）を行う必要がありますが、大学にとってフルタイムの仕事を新たに作ることは容易ではありません。法定雇用率達成のために障害者雇用を行う企業も多く、その結果、長時間働けない多くの人がいままで職に就けないままになっています。
- (2)人材供給の偏り:障害があるからといって専門的知識を習得した人材が必ずしも少ないわけではないですが、通勤し、かつ、フルタイム働ける人となるとその数は極端に減少します。

2. 短時間雇用のメリット

そこで、領域創成プロジェクト・バリアフリープロジェクトでは、以下のような考えに基づき、短時間の障害者雇用を実施しています。労働時間を短時間にする事で以下のようなメリットが生じることになります。

- ・ハードルの低さ:障害者雇用の必要性を感じても、その準備、配慮等を考えると躊躇する人が多いと思われるが、短時間ならハードルが低い。
- ・専門性の高い人材の活用:重度肢体不自由、アスペルガー症候群や軽度精神障害のある人などの中には、優れた知識・技能を持ちながら長時間就労が困難な人がいる。彼らの中には短時間なら働ける専門性の高い人が数多くいる。
- ・重度障害のある人への門戸開放:重度障害のある人も短時間なら可能な仕事が多い。彼らは在宅生活、あるいは作業所等で僅かな収入を得ている。短時間ではあるが、彼らの収入をアップすることが可能である。
 - ・フレキシビリティ:雇う側は必要な時に必要な仕事を頼める。雇われる側も他の仕事と合わせることが容易。
- ・専門家を有する研究機関としての義務:短時間の就労はワークシェアリングにもつながる重要な考えであるが、障害者雇用となると、多くの企業にはメリットがあるかどうか明確ではない。大学だから可能な先進的試みである。
- ・正規の就労に向けてのウォームアップの手助け:短時間であるがゆえに働く人に負担が少ない。正規の就労に向けての準備が可能である。
- ・教員が障害のある人と接する機会の増加:障害者雇用は事務サイドにだけ関係することではない。教員サイドにとっても障害のある人と働く良いきっかけになると思える。
- ・社会的インパクトの大きさ:コンプライアンスとしてだけでなく障害のある人を必要な労力として雇用するモデルを提示できれば社会に大きな影響を及ぼす。

3. バリアフリープロジェクトにおける短時間雇用の試み

現在、領域創成プロジェクトおよびバリアフリープロジェクトでは視覚障害、肢体不自由、認知障害、精神障害のある4人に1週数時間から15時間程度、データ入力や書類の整理などをアルバイトとして依頼しています。その中の一人である精神障害のあるAさんは、以下のように語っておられます。

「私は、38歳になってから、発達障害者であると診断され、それまで一般就労をしてきましたが、2次障害のうつ病を併発するに至って、自宅療養をする身となりました。その状況になり、約3年半になります。その間に、何度か就労についてのアプローチをしましたが、それまでの対人関係やコミュニケーションにおける不適応があつて、職場恐怖を感じてしまい、また職務上不適切な行動をする自分にも不安を感じております。その為、一般就労にはなかなか前向きにはなれずにいます。ですが、そのような中、今回お誘い頂いて非常に有難く思っております。特に、書籍の編集の仕事については、以前そのような仕事を8年程していたこともあり、パソコン作業も自分には向いていると思っておりましたので、毎回仕事に向うことが楽しく感じられています。」

一人の人を週30時間雇用することと、30人の人を週1時間雇用することは同じこととも言えます。短時間雇用は雇用率算出にカウントできないものの以上のような点で多くのメリットをもつのです。

パソコンノートテイク支援

バリアフリー支援室では、平成18年4月から法学政治学研究科法曹養成専攻に入学した、聴覚に障害をもつ学生の講義保障を行うため、法学政治学研究科との連携・協力のもと、以下のような支援を行っています。

主な支援内容

1. 講義時のパソコンノートテイク

聴覚に障害をもつ学生に、パソコン入力で、講義内容や周りの様子をリアルタイムで文字化し伝える方法です。

法学政治学研究科が担当教員の了承を受け、バリアフリー支援室の支援コーディネーターが、各講義に入るパソコンノートテイクを行う人（ノートテイク）のローテーションを組みます。ノートテイクは、2人1組で講義に入り、聞こえるあらゆる種類の音声情報を入力します。

入力された文字は、聴覚に障害をもつ学生の前にあるパソコン画面上に表示され、その文字を読むことで講義内容を知ることができます。



2. 講義後の文字起こし

講義時のパソコンノートテイクだけでは補いきれない言葉などを、録音したテープを聞きながら文字化する作業です。それにより、全ての音声情報を提供することができます。

実際に支援を行っているのは？

現在、バリアフリー支援室に登録されている、おもに学生からなる36名の支援者の方々です。この支援は、有償でアルバイトの形態をとっています。支援者は、日々の講義保障になくてはならない存在です。

支援を受けている学生の感想

文字化された言葉を見て初めて、主に話し言葉から成る講義で私の今まで得ていた情報量が5%、質としては1%もなかったのか、ということを知りました。そして、今まで得てきたこのような断片的な情報は、話し言葉の文字化によって初めて理解できることがとても多く、毎日たくさんの新しい発見があります。多くの方々の支援によって、私も「人の話を聞く」ことができることを、心より感謝しています。

支援を行っている学生の感想

- ・自分のやっているテープ起こしが役立っている声を聞いて、やりがいを感じます。（学部生・男）
- ・テープ起こし作業をするようになったせいか、「障害」のことに関心が向くことが多くなりました。（学部生・男）
- ・法科大学院では、自分の課題で精一杯になりがちですが、このような身近な人を支える活動は、心の余裕を生むものだと感じました。（院生・女）
- ・第一に、支援の存在を多くの人に知ってもらうことが大事だと思います。また、参加しやすい環境作りも、とても重要だと思います。（院生・男）



今後の支援のあり方

障害をもつ学生と障害のない学生と一緒に学習・研究を行うためには、法学政治学研究科やバリアフリー支援室が行う支援のみならず、障害をもつ学生自身、他の学生、教員、職員など、関係する全ての人々が出る範囲での協力をするのが大切です。そのことによって初めて、皆にとっても生活しやすい環境が実現するのではないかと考えています。

NEWS

一般ニュース



総務部

第104回東京大学公開講座「人口」
を開催

東京大学公開講座は、50年以上の歴史があり、今回で104回目を迎える。今回は、昨今マスコミを賑わせており社会的関心も高い「人口」をテーマに、4月1日（土）から5月20日（土）の間、計5回に渡って行われた。

毎年春と秋の2回行われている公開講座だが、昨年の秋は開催しなかったため、毎回参加している熱心な方からは「次回はいつ開催するのか」といった問い合わせが多数寄せられていた。再開を心待ちにしている方のあまりの熱心さには、担当者も驚くほどであった。



公開講座初日。大講堂前の桜は満開だった

参加者の住所を見ると、東京近郊はもとより、北は北海道から南は鹿児島まで、宮城・山形・福島・石川・愛知・京都・徳島・宮崎などなど、日本全国にわたってお

り、市民の方々の本学の教育・研究に対する関心の高さがうかがわれた。

今回の公開講座の企画委員長・桂利行数理科学研究科長は「土曜の午後のひととき、馥郁たる学問の香りをゆっくりとお楽しみ下さい。」という名文をパンフレットの挨拶に寄せてくださった。土曜の午後、春の陽気に誘われてうとうとしてしまう参加者もいないわけではなかったが、本学講師陣の多彩な講義内容に、多くの方々はそれぞれの興味・関心に基づき熱心に耳を傾けていた。



初回の講義。稲葉寿・数理科学研究科助教による「人口学の考え方と人口問題」

車椅子で毎週参加されていたある方は、「足が悪くなり、車椅子の生活で気持ちがふさぎこみがちでしたが、いろいろなことに関心を持ち、前向きに生きようと思って今回初めて参加しました。とても勉強になります。」と笑顔で語っていた。このように本学との幸福な出会いをする方を増やすためにも、今後も積極的に本学の公開講座をPRしていきたい。

最後になりましたが、今回の公開講座に協力して下さったすべての方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

詳しいプログラムは本学ホームページからご覧いただけます。（トップページ「社会人・一般の方へ」→「公開講座・講演会」→「東京大学公開講座」）

また、講義の様子は後日、「TODAI TV」(<http://todaitv.ep.u-tokyo.ac.jp/>)で公開する予定です。



学生部

平成18年度（前期）東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）の採択決まる

本学大学院学生の国外における研究活動の活性化を図るため、平成16年度後期より実施された「東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）」に関して、5月22日の東京大学学生生活委員会奨学部会において、平成18年度前期（平成18年6月～11月出発）応募者の審査が行われ、75件の実施計画が採択された。応募者は219名であった。なお、研究科別の応募及び採択状況は以下のとおりである。

研究科名	応募者数	採用者数	主な渡航先
人文社会系研究科	18	6	ベルリン、北京、アトランタ、アテネ、ハーグ、ヤーツク
教育学研究科	7	3	アテネ、大連、アムステルダム
法学政治学研究科	0	0	
経済学研究科	7	3	イバダ、パリ、ダラット
総合文化研究科	30	9	ムンバイ、プラハ、北京、上海、シドニー、サンフランシスコ、テグシガルバ、ベオグラード、インディアナ
理学系研究科	24	8	ルーガンビル、ミュンヘン、ヴェルツブルグ、イスタンブール、ボストン、シンガポール、ニューヨーク、北京
工学系研究科	44	14	サンフランシスコ、ボストン、ピッツバーグ、オース、香港、ドレスデン、ニューヨーク、カリフォルニア、インスブルック、ニューメキシコ、シドニー、ハメット
農学生命科学研究科	31	8	フィラデルフィア、ハンブルグ、チャールトン、ポートランド、レオ、杭州、天津、ゴールドコースト
医学系研究科	24	8	グアテマラ、バンコク、カンクン、ニャチャン、ボストン、シンガポール、サンディエゴ
薬学系研究科	5	3	アトランタ、マディソン、サンフランシスコ
数理科学研究科	0	0	
新領域創成科学研究科	21	7	ウィーン、リヨン、シアトル、北京、ベルン、イエーテボリ、ニューヨーク
情報理工学系研究科	3	3	パリ、モントリオール
学際情報学府	5	3	ニューヨーク、シンシナティ、パリ
公共政策学教育部	0	0	
合計	219	75	



学生部

「東京大学外国人留学生特別奨学制度（東京大学フェローシップ）平成18年度研究奨励費受給者証書授与式」を開催

「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成18年度研究奨励費受給者証書授与式」が、5月24日（水）14：00から、関係役員等の臨席の下に御殿下記念館研修室で開催された。

東京大学外国人留学生特別奨学制度は、「大学院における特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資すること」を目的として、平成16年度から設立されたものである。

本年度は、修士課程大学院学生7名、専門職学位課程大学院学生1名、博士課程大学院学生11名、大学院外国人研究生1名の合計20名が受給者として決定され、当日は古田理事（副学長）から受給者一人一人に受給者証書が手渡された。

次いで、古田理事（副学長）から「本制度は、設立後、



受給者証書授与

今年で3年目となりました。留学生の皆さんには、月額15万円の研究奨励費受給により、日本で実りある研究生生活を送っていただきたい。本学での研究成果が本制度の継続の有無を左右することとなります。また、体を大切に健康に気を付けてください。」という旨の挨拶があり、引き続き、受給者を代表して大学院農学生命科学研究科の李秀貞さんから、感謝のスピーチがあった。



平成18年度研究奨励費受給者と関係者

<研究奨励費>月額15万円

<支給予定期間>

修士課程大学院学生及び博士課程大学院学生：

平成18年4月から東京大学大学院学則第2条に定める標準修業年限の最終月まで

専門職学位課程大学院学生：


平成18年4月から東京大学大学院専門職学位課程規則第4条に定める標準修業年限の最終月まで

大学院外国人研究生：

平成18年4月から東京大学大学院外国人研究生に関する規程第8条に定める在学期間の最終月まで

<問い合わせ先>

学生部生活支援課奨学チーム（奨学金担当）
内線22543



学生部

**知の創造的摩擦プロジェクト第2回
交流会「現役東大生×卒業生」を
開催**

6月3日（土）午後3時から駒場キャンパス生協食堂2階において、本学学生を対象とした知の創造的摩擦プロジェクト第2回交流会「現役東大生×卒業生」が開催された。

このプロジェクトは、本学が主催する卒業生と現役東大生との交流企画であり、卒業生との対話を通して双方が刺激を共有し、現役学生が、より主体的な学生生活の過ごし方、キャリア選択のあり方について考えるきっかけの場になれば、と進められた。竹原副理事の趣旨説明、野中亮宏（経済学部3年）学生幹事の挨拶、卒業生によるパネルディスカッションの後、「ひらめき」をカタチにしたい！技術革新を巻き起こす！ここから日本を変える！等々、8つのテーマで45分×3回のグループ・ディスカッションが繰り広げられた。



交流会会場の様子

「どんなモチベーションをもって仕事に臨んでいるか」「大学に入ったけれど自分が何をしたいのか、この学部で何が自分にできるのか」「より価値のある生き方って何?」、など各テーブルで活発な対話が繰り広げられた。



パネルディスカッションでは活発な意見が交わされた

1階食堂に場を移しての懇親会は、木畑洋一教養学部長の開会の辞で開始され、ディスカッションでは足りなかった話の輪が、そこかしこに広がった。

今回の交流会には、101名の卒業生と426名の学部・大学院学生が参加した。

学生部

平成18年5月1日現在の学生数
一学部学生14,471人、大学院学生13,600人、研究生等726人



本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年5月1日現在の学生数は次のとおりである。

平成18年5月1日現在 学部学生・研究生・聴講生数調

学部・課程別	平成18年度		平成17年度		平成16年度(以前)		平成15年度		平成14年度以前		小計		在籍者のうち、外国人学生及び休学者(再掲)				研究生		研究生のうち外国人(再掲)		聴講生			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計			
	計		計		計		計		計		計		計		計		計		計		計			
前期課程・教養学部	2,524	633	2,536	621	387	30	-	-	-	-	5,447	1,284	6,731	128	56	184	35	5	40	-	-	-	-	
法学部	319	118	494	133	291	49	-	-	-	-	1,104	300	1,404	11	8	19	35	9	44	-	-	-	12	
後期	80	22	87	16	87	13	78	19	12	5	344	75	419	0	0	0	4	1	5	18	7	25	0	
医学部	8	9	20	16	2	1	-	-	-	-	30	26	56	0	1	1	0	1	1	6	11	17	0	0
健康科学・看護学科	873	90	844	66	147	6	-	-	-	-	1,864	162	2,026	48	11	59	26	1	27	15	3	18	6	1
工学部	214	135	217	127	129	38	-	-	-	-	560	300	860	7	10	17	21	21	42	2	3	5	0	0
文学部	244	34	259	27	41	2	-	-	-	-	544	63	607	10	4	14	11	1	12	1	1	2	0	0
理学部	200	55	195	66	33	7	-	-	-	-	428	128	556	4	4	8	6	3	9	6	3	9	1	0
農学部	22	10	19	12	20	10	19	11	1	0	81	43	124	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
経済学部	291	64	285	60	101	10	-	-	-	-	677	134	811	8	11	19	20	4	24	-	-	-	-	3
教養学部	106	55	138	56	58	29	-	-	-	-	302	140	442	7	6	13	14	14	28	1	0	1	0	0
教育学部	55	52	71	42	20	10	-	-	-	-	146	104	250	1	1	2	3	4	7	3	1	4	0	0
薬学部	64	24	58	36	2	1	-	-	-	-	124	61	185	3	0	3	2	1	3	2	3	5	0	0
小計	2,476	668	2,687	657	931	176	97	30	13	5	6,204	1,536	7,740	99	56	155	143	60	203	54	32	86	7	1
合計	5,000	1,301	5,223	1,278	1,318	206	97	30	13	5	11,651	2,820	14,471	227	112	339	178	65	243	54	32	86	7	1

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。

2. 平成16年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部医学科・農学部獣医学課程は平成16年度入進学者のみ、他の学部学科は平成16年度以前の入進学者数を示す。

平成18年5月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別 課程別 入進学 年度 性別	在籍者												外国人学生(再掲)				休学者のうち				大学院 外国人 研究生		大学院 研究生		特別 研究生																		
		修士及び専門職学位課程						博士課程						外国人学生(再掲)		休学者のうち		大学院 外国人 研究生		大学院 研究生		特別 研究生																						
		18年度		17年度		16年度 以前		18年度		17年度		16年度		15年度 以前		合計		修士(専門職 学位)課程		博士 課程		合計		大学院 外国人 研究生		大学院 研究生		特別 研究生																
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計													
人文社会学	82	47	72	55	50	39	204	141	345	68	35	61	42	69	40	171	106	369	223	592	16	18	35	41	110	24	22	112	80	238	17	42	59	3	4	7	1	0	1					
教育学	43	42	45	29	12	2	100	73	173	20	25	16	24	14	26	38	46	88	121	209	382	2	15	7	23	47	5	3	26	39	73	7	6	13	5	1	6	0	1	1				
総合法政 政治学	9	15	10	6	1	1	20	22	42	17	18	17	6	15	10	16	10	65	44	109	151	9	13	11	16	49	2	0	9	9	20	9	10	19	0	0	0	0	0	0	0			
経済学	50	9	48	17	3	0	101	26	127	22	5	30	2	31	3	51	10	134	20	154	281	7	5	9	4	25	2	0	41	8	51	4	1	5	5	1	6	0	0	0				
総合文化	148	103	147	96	34	32	329	231	560	106	55	96	60	108	67	172	154	482	336	818	1,378	21	29	53	78	181	22	33	108	112	275	21	22	43	14	14	28	5	2	7				
理学系	290	79	297	71	24	3	611	153	764	163	32	183	38	181	27	75	23	602	120	722	1,486	10	5	21	8	44	8	2	11	3	24	5	2	7	15	4	19	5	2	7				
工学系	773	99	799	105	116	31	1,688	235	1,923	140	24	283	42	261	50	175	61	859	177	1,036	2,959	174	63	270	92	599	23	7	30	21	81	64	23	87	10	2	12	1	1	2				
原子力	[17]						[17]		[17]												[17]																							
農学	214	91	196	83	16	8	426	182	608	107	40	89	42	104	38	52	30	352	150	502	1,110	21	16	58	42	137	4	1	16	10	31	7	14	21	9	4	13	4	1	5				
生命科学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	7	11	5	14	8	17	5	61	25	86	86	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3	1	1	2	14	6	20	0	0	0			
医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	133	54	155	54	135	64	127	70	580	261	841	841	-	-	-	-	-	-	-	-	33	20	53	8	9	17	1	5	6	23	10	33			
医学系	19	50	30	27	9	11	58	88	146	12	33	14	28	16	27	2	13	44	101	145	291	11	15	10	16	52	7	12	3	14	36	2	6	8	0	1	1	2	1	3				
保健学	11	8	9	11	0	1	20	20	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	0	1	-	-	-	-	1	1	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
医科学	62	35	65	30	2	3	129	68	197	40	9	36	13	45	7	1	2	122	31	153	350	6	6	2	4	18	5	2	1	1	9	2	1	3	5	0	5	7	3	10				
薬学系	43	1	38	2	9	0	90	3	93	17	2	17	0	17	0	9	2	60	4	64	157	4	2	12	1	19	1	0	0	0	1	1	0	1	3	0	3	0	0	0				
数理科学	311	87	334	82	53	20	698	189	887	85	26	109	30	73	31	52	28	319	115	434	1,321	52	24	42	15	133	14	10	18	13	55	14	3	17	5	3	8	6	0	6				
新領域創成科学	192	12	174	19	11	1	377	32	409	50	4	61	7	57	3	26	2	194	16	210	619	35	13	41	11	100	8	0	7	2	17	23	2	25	2	0	2	6	4	10				
情報理工学系	45	35	43	27	12	4	100	66	166	24	13	17	7	17	11	16	8	74	39	113	279	5	15	7	9	36	6	4	8	3	21	7	15	22	0	0	0	1	0	1				
学際情報	[72]	[31]	[69]	[25]	[5]	[8]	[146]	[64]	[210]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[210]	[11]	[6]	-	-	-	-	-	[3]	[0]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
公共政策学	2,581	842	2,568	786	422	213	5,571	1,841	7,412	1,020	382	1,195	400	1,157	412	1,033	589	4,405	1,783	6,188	13,600	386	246	639	413	1,684	139	101	425	336	1,001	192	157	349	91	45	136	61	25	86				
合計																																												

備考 1. 専門職学位課程は、〔 〕書きで示す。
 2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成14年度以前の入学者を示し、外数である。
 3. 大学院研究生、特別研究生数欄の()内は、外国人を示し内数である。
 4. 外国人学生には在日外国人を含む。
 5. 教育学研究科の大学院科目等履修生(16人)
 6. 法学政治学研究科の大学院科目等履修生(9人)
 7. 工学系研究科の大学院科目等履修生(0人)
 8. 薬学系研究科の大学院科目等履修生(0人)
 9. 情報理工学系研究科の大学院科目等履修生(0人)
 10. 情報学環教育部研究生(144人)(留1)内数



本学では、大学院関連の統計調査を行っている。本稿では、今年度大学院入学者数、昨年度修了者数、昨年度研究指導委託件数、年度別学位授与状況等について掲載する。

平成18年度 大学院入学者数

平成18年5月1日

研究科(教育部)	入学定員		受入予定人員		入学者						合計				
	修士又は専門職学位		修士又は専門職学位		修士又は専門職学位課程			博士							
	博士	修士又は専門職学位	博士	修士又は専門職学位	日本人	留学生	計	日本人	留学生	計					
	193	108	141	207	70	46	14	130	86	9	6	3	104	234	
人文社会系研究科					27	38	1	2	68	27	2	1	32	100	
教育学研究科					94	127	2	24	247	118	21	12	10	161	408
法学					169	201	0	4	374	203	19	3	5	230	604
政治学					519	264	12	43	838	137	42	12	29	220	1058
研究科					<<15>>	<<15>>	<<0>>	<<0>>	<<15>>	<<0>>	<<0>>	<<0>>	<<0>>	<<15>>	15
原子力					163	107	0	18	288	83	31	8	12	134	422
農学										12	3	0	0	15	15
生命科学															
農学研究科															
獣医学															
獣医学研究科															
医学															
医学系															
保健学															
医学系研究科															
薬学系研究科															
数理科学研究科															
新領域創成科学研究科															
情報理工学系研究科															
学際情報学府															
公共政策学教育部															
合計	3,164	1,679	2,010	3,716	1,707	1,420	28	176	3,331	1,008	286	74	103	1,471	4,802

(注1) () は留学生数、<>は大学院学則第16条第1項第6号による入学者数を示し、内数である。
 (注2) 《》は専門職学位課程を表す。

平成17年度 修了者数

区 分	修士課程				博士課程				専門職学位課程				合 計			
	男女別内訳		うち外国人		男女別内訳		うち外国人		男女別内訳		うち外国人		男女別内訳		うち外国人	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
文学	124	72	52	14	44	25	19	8					168	97	71	22
人文社会科学系研究科	7	3	4		3	3							10	6	4	0
心理学	13	11	2	3	5	4	1						18	15	3	3
社会学	2	0	2										2	0	2	0
社会心理学	3	2	1		1	1							4	3	1	0
社会情報学	59	25	34	8	11	6	5	3					70	31	39	11
教育学研究科	35	15	20	11	5	3	2	1					40	18	22	12
法学政治学研究科													178	139	39	0
法学博士													71	58	13	9
経済学研究科	57	47	10	8	14	11	3	1					0	0	0	0
区分一貫						0										
総合文化研究科	222	146	76	29	85	52	33	16					307	198	109	45
国際貢献	10	1	9	2		0							10	1	9	2
理学系研究科	321	261	60	8	163	122	41	10					484	383	101	18
工学系研究科	753	666	87	81	237	207	30	94					990	873	117	175
工学					8	5	3	1					8	5	3	1
原子力修士													15	15	0	0
農学生命科学研究科	309	214	95	31	119	89	30	26					428	303	125	57
農学					27	16	11	7					27	16	11	7
獣医学					174	118	56	16					174	118	56	16
医学系研究科	56	21	35	7	27	5	22	5					83	26	57	12
医学	19	11	8										19	11	8	0
保健学	93	63	30	2	51	41	10	5					144	104	40	7
医科学	36	32	4	2	24	22	2	3					60	54	6	5
薬学系研究科	130	120	10	14	34	31	3	3					164	151	13	17
薬学	76	43	33	3	24	18	6	2					100	61	39	5
生命科学	150	117	33	7	26	17	9	4					176	134	42	11
環境学	23	11	12	1	2	2	0						25	13	12	1
国際協力学	172	161	11	15	41	38	3	9					213	199	14	24
情報理工学系研究科	62	39	23	12	1	0	1						63	39	24	12
工学													78	55	23	5
公共政策学													(+271)	(+209)	(+62)	(+5)
合計	2,732	2,081	651	258	1,126	836	290	214	(+83)	(+38)	(+25)	(+271)	(+209)	(+62)	(+5)	(+54)
	(+13)	(+2)	(+11)	(+26)	(+121)	(+38)	(+83)	(+25)	(+271)	(+209)	(+62)	(+5)	(+405)	(+249)	(+156)	(+54)
	2,732	2,081	651	258	1,126	836	290	214	271	209	62	5	4,129	3,126	1,003	477

(注) ()は昨年度との比較増減を示す。

平成17年度 休学者数

研究科 (教育部)	修士・博士別	新 規							継 続							計					
		病	気	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	病	気	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見	海外における 海外にける 見						
人文社会系研究科	修士	3	2	1	33															53	
	博士	1	33	3	44															1	207
教育学研究科	修士	1	1	1	5																9
	博士		3		31																63
法学政治学研究科	修士		2		1																5
	専門職	7			5																15
政治学系研究科	博士		5	2	5																23
	修士		1		4																6
総合文化研究科	博士	2	11	1	7																63
	修士	3	6	1	31																59
理学系研究科	博士	5	32	4	78																281
	修士	5	1		9																36
工学系研究科	博士	4			11																26
	修士	4	8	1	18																42
農学生命科学研究科	博士	6	2	1	16																60
	修士	3	1		8																19
医学系研究科	博士	4			13																41
	修士	1			10																19
薬学系研究科	博士	4	2	1	28																72
	修士				2																3
数理科学研究科	博士				2																3
	修士	1			1																3
新領域創成科学研究科	博士	1			1																2
	修士	1			2																1
情報理工学系研究科	博士	2	4	3	19																37
	修士	1	3	2	15																34
学際情報学府	博士	3	2		3																13
	修士	1	3		3																9
公共政策学教育部	博士	1			6																12
	専門職		1		5																11
計	計	27	28	8	150																5
	修士	7	1	0	5																315
	博士	29	95	16	258																894

平成17年度 留学者数等

研究科（教育部）	留 学			在学身分のままの海外渡航			研究指導の大学院等			備 考
	修士	専門職	博士	修士	専門職	博士	修士	専門職	博士	
人文社会系研究科	1		7							
教育学研究科										該当なし
法学政治学研究科			2			2				
経済学研究科			1							
総合文化研究科			14	1		13			11	
理学系研究科				7		22			5	
工学系研究科	12	3							5	
農学生命科学研究科			1	1		9		1	13	
医学系研究科						7			2	
薬学系研究科						4				
数理科学研究科									2	
新領域創成科学研究科	7		6							
情報理工学系研究科										該当なし
学際情報学府										該当なし
公共政策学教育部										該当なし
計	20	3	31	9	0	57	1	0	38	

平成17年度 研究指導委託・受託学生数

研究科(教育部)	研究指導委託学生数										研究指導受託学生数												
	国内					外国					国内					外国							
	国立		公立		私立	研究所等		修士		博士	修士		博士		私立	修士		博士					
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士			
人文社会系研究科									4	0	4									1	0	1	
教育学研究科										0	0									1	1	0	
法学政治学研究科										0	0										0	0	
経済学研究科										0	0										0	0	
総合文化研究科	4				1		3	11	0	19	5	3								1	5	6	8
理学系研究科	2	5				4	12	5	6	22	2	8		1								3	8
工学系研究科	1	3					1	5	1	9	3	4										3	4
農学生命科学研究科	1	2					3	1	13	18	3	10			2					1	2	4	14
医学系研究科		3				6	17	2	1	29	1	27		4	1	10						2	41
薬学系研究科	4	3			3		4			8	7	1	7		4	4					1	5	12
数理科学研究科									2	2	0	1										0	1
新領域創成科学研究科	3	2	1		1		1			4	4	7										4	7
情報理工学系研究科	2	3							2	5	2	2								3		9	2
学際情報学府										0	0											0	1
公共政策学教育部																							
計	13	25	1	2	3	8	5	41	1	44	23	120	25	70	1	6	5	14	6	9	37	99	

研究指導委託（平成17年度）

実施研究科等	相手方大学院・研究所等名	学生人数	実施研究科等	相手方大学院・研究所等名	学生人数	
人文社会系研究科	中国社会科学院哲学研究所（中国）	1	農学生命科学研究科	ケンブリッジ大学クイーンズ獣医学部（イギリス）	1	
	リール第3大学（フランス）	1		ジュネーブ大学（スイス）	1	
	ストラスブール第2大学（フランス）	1		熊本大学大学院医学薬学研究部	1	
	中国社会科学院哲学研究所（中国）	1		大阪大学微生物学研究所	1	
総合文化研究科	国際哲学学院（フランス）	1	医学系研究科	Hannah Research Institute（イギリス）	1	
	パリ第7大学（フランス）	1		精神・神経センター 神経研究所	2	
	国立ポーロニャ大学文哲学部視覚芸術学科（イタリア）	1		国立感染症研究所	2	
	パリ第10大学舞台芸術研究科（フランス）	1		(独)理化学研究所	2	
	モハメド5世大学人文学部（モロッコ）	1		国立がんセンター研究所	2	
	Centre for the Study of Developing Societies(インド)	1		東京都臨床医学総合研究所	2	
	国立がんセンター研究所	1		リハビリテーションセンター	3	
	日本女子大学理学部物質生物科学科	1		放射線医学総合研究所	1	
	ケンブリッジ大学ニードム研究所（イギリス）	1		癌研究会 癌化学療法センター	1	
	スタンフォード大学ゲノムテクノロジーセンター（アメリカ）	1		情報システム研究機構	1	
	埼玉大学大学院理工学研究科	2		自然科学研究機構生理学研究所	2	
	京都大学大学院理学研究科	1		埼玉医科大学医学研究科	2	
	東北大学大学院工学研究科	1		東邦大学医学研究科	1	
	復旦大学中国語文学研究所（中国）	1		日本医科大学医学研究科	1	
	ロンドン大学（イギリス）	1		千葉大学医学研究院	3	
	(独)理化学研究所	1		自治医科大学医学研究科	1	
	テュービンゲン大学（ドイツ）	1		三重県立看護大学看護学科	1	
国立神経・神経センター神経研究所	1	近畿大学医学部	1			
理学系研究科	千葉大学自然科学研究科	1	薬学系研究科	ハーバード大学医学部（アメリカ）	2	
	国立天文台	6		東京農工大学大学院工学研究科	1	
	日本原子力研究所	1		名古屋市立大学大学院薬学研究科	1	
	(独)理化学研究所	8		山形大学大学院医学系研究科	1	
	埼玉大学理学部	4		三菱化学生命科学研究所	1	
	核融合科学研究所	1		(独)理化学研究所	2	
	Paul Scherrer Institute（スイス）	2		微生物化学研究会附属微生物化学研究センター	1	
	ブルックヘブン国立研究所（米国）	2		東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	4	
	京都大学大学院理学研究科	1		東京医科歯科大学大学院生命情報科学教育部	1	
	京都大学大学院工学研究科	1		早稲田大学大学院理工学研究科	1	
	パリ地球物理学研究所（フランス）	1		武蔵野大学薬学研究科	1	
工学系研究科	大阪大学産業科学研究科	1	数理科学研究科	明治薬科大学大学院薬学研究科	1	
	理化学研究所脳科学総合研究センター	1		ペンシルバニア州立大学大学院（アメリカ）	1	
	カリフォルニア大学サンタバーバラ校物理学科（アメリカ）	1		Sheffield大学大学院（イギリス）	1	
	千葉大学工学部	1		新領域創成科学研究科	京都工芸繊維大学	2
	名古屋大学大学院工学研究科	1			横浜市立大学	1
	パリ第一大学ルドゥ・センター（フランス）	1			大阪大学	1
	北海道大学大学院工学研究科	1			国立がんセンター研究所	1
	ウィスコンシン大学マディソン校応用超伝導センター（アメリカ）	1			埼玉大学	1
	キュリー研究所（フランス）	1			東京農工大学	1
	チューリッヒ工科大学（スイス）	1			東京理科大学	1
農学生命科学研究科	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科	1	情報理工学系研究科		京都大学大学院人間・環境学研究科	1
	スウェーデン農科大学（スウェーデン）	1			東北大学大学院情報科学研究科	1
	ペンシルバニア州立大学（アメリカ）	1			ハーバード大学工学・応用科学部（アメリカ）	1
	(独)産業技術総合研究所	1		東京工業大学大学院情報理工学研究科	1	
	ニューヨーク州立大学（アメリカ）	1		京都大学大学院人間・環境学研究科	1	
	日本原子力研究所	1		フ라운ホーファー研究所（ドイツ）	1	
	(独)理化学研究所	1		滋賀医科大学MR医学総合研究センター	1	
	ヤシヴァ大学アルバートアインシュタイン医学部（アメリカ）	2				
	City of Hope National Medical Center, Southern California	1				
	Islet Resource Center（アメリカ）	1				
	ミシガン大学（アメリカ）	1				
	Canada, National Research Council（カナダ）	1				
	Max-Planck-Institute for Terrestrial Microbiology(ドイツ)	1				
	オーフス大学（デンマーク）	1				
	チュラロンコン大学（タイ）	1				

研究指導委託（平成17年度）

受入研究科等	在学中の大学名	学生人数
人文社会系研究科	イリノイ大学アーバナ・文化人類学科シャンペーン校	1
教育学研究科	北京外国語大学（中国）	1
総合文化研究科	イエール大学（アメリカ）	3
	埼玉大学	2
	大阪大学	1
	東京工業大学	2
	フンボルト大学（ドイツ）	1
	東京海洋大学	1
	成均館大学（韓国）	1
	北京大学（中国）	1
	名古屋大学	1
	豊橋技術科学大学	1
理学系研究科	高知大学大学院理学研究科	1
	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	1
	九州大学大学院理学府	1
	京都大学大学院理学研究科	1
	大阪大学大学院理学研究科	1
	東京工業大学理工学研究科	4
	東京理科大学理工学研究科	1
	埼玉大学大学院教育学研究科	1
工学系研究科	名古屋大学大学院工学研究科	2
	東京学芸大学大学院教育学研究科	1
	香川大学大学院工学研究科	1
	北海道大学大学院地球環境科学研究科	1
	千葉大学大学院自然科学研究科	1
	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	1
農学生命科学研究科	京都大学大学院農学研究科	2
	コンケン大学農学部（タイ）	1
	東京学芸大学大学院教育学研究科	1
	中山大学生命科学学院（中国）	1
	京都大学大学院農学研究科	1
	九州大学大学院システム生命科学府	1
	北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科	1
	中国農業大学農学と生物技術学院（中国）	1
	東北大学大学院医学系研究科	2
	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科	1
	京都府立医科大学大学院医学研究科	2
	徳島大学大学院医科学教育部	1
	岩手大学大学院連合農学研究科	1
	千葉大学大学院医学薬学府	1
	東北大学大学院農学研究科	1
医学系研究科	金沢大学医学系研究科	4
	大阪大学医学系研究科	1
	京都大学医学研究科	1
	京都府立医科大学	2
	杏林大学医学研究科	1

受入研究科等	在学中の大学名	学生人数
医学系研究科	群馬大学医学系研究科	2
	高知大学医学系研究科	1
	順天堂大学医学研究科	3
	東京医科歯科大学医歯学総合研究科	3
	名古屋市立大学薬学研究科	1
	日本大学医学研究科	1
	広島大学医学系研究科	2
	北海道大学医学研究科	4
	山梨大学医学工学総合教育部	1
	横浜市立大学医学研究科	1
	岐阜大学連合獣医学研究科	1
	近畿大学医学研究科	1
	聖マリアンナ医科大学医学研究科	1
	総合研究大学院大学生命科学研究科	2
	筑波大学人間総合科学研究科	3
	長崎大学医歯薬学総合研究科	1
	島根大学医学系研究科	1
	東海大学	1
	東京女子医科大学医学研究科	1
	東邦大学眼科学研究科	1
	徳島大学栄養学研究科	1
	奈良県立医科大学医学研究科	1
薬学系研究科	早稲田大学大学院理工学研究科	7
	大阪医科大学大学院医学研究科	1
	University of The Basque Country（スペイン）	1
	千葉大学大学院医学薬学府	2
	岐阜大学大学院連合獣医学研究科	1
	九州大学大学院薬学府	4
	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科	1
数理学研究科	京都大学	1
新領域創成科学研究科	名古屋大学	5
	東北大学	2
	筑波大学	1
	東京工業大学	3
情報理工学系研究科	京都大学大学院理学研究科	2
	筑波大学大学院生命環境科学研究科	2
	電気通信大学大学院電気通信学研究科	3
	総合研究大学院大学生命科学研究科	1
	ヘルシンキ工科大学（フィンランド）	1
	Polytech Grenoble Engineering School（フランス）	1
	コペンハーゲン大学（デンマーク）	1
学際情報学府	東北大学大学院情報科学研究科	1

平成17年度 学位論文審査協力依頼件数

(論 文 件 数)

研 究 科	大 学						国 立 の 研究 所 等 へ		国 立 以 外 の 研究 所 等 へ		計	
	国 立		公 立		私 立		博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士
	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士						
	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士	博 士	修 士
人 文 社 会 系 研 究 科	25		3		44			9		81	0	
教 育 学 研 究 科					1			1		2	0	
法 学 政 治 学 研 究 科										0	0	
経 済 学 研 究 科	1				1					2	0	
総 合 文 化 研 究 科	11		1		28			1		47	0	
理 学 系 研 究 科	23				2			9		48	0	
工 学 系 研 究 科	31		4		12			5		56	0	
農 学 生 命 科 学 研 究 科	25	1	1		9			1	1	54	3	
医 学 系 研 究 科										2	0	
薬 学 系 研 究 科					1					1	0	
数 理 科 学 研 究 科	9		1		1					11	0	
新 領 域 創 成 科 学 研 究 科	5				8			1		19	0	
情 報 理 工 学 研 究 科	6		1							8	0	
学 際 情 学 府			1							1	0	
計	136	1	12	0	107	0	1	27	1	332	3	

年度別学位授与状況 (課程博士)

研究科・学部	学位	年度																
		平成3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
人文社会科学	博士(文学)	6	14	30	24	21	24	24	28	30	30	42	42	26	34	44		
	博士(心理学)	6	20	50	74	95	119	143	171	201	231	261	303	329	363	407		
	博士(社会学)		1	1	4	2	1	2	2	2	2	2	0	2	3	3		
	博士(社会心理学)		1	2	6	8	9	11	13	15	17	19	19	21	24	27		
教育学	博士(教育学)					3	3	3	4	3	5	2	2	6	2	5		
	博士(社会学)					1	13	16	20	23	28	30	32	38	40	45		
	博士(社会心理学)					1	0	1	2	0	1	0	0	1	0	0		
	博士(社会情報学)					4	4	5	7	7	8	8	8	9	9	9		
法学	博士(教育学)	2	2	4	6	4	6	6	3	5	10	4	9	10	6	11		
	博士(法学)	2	4	8	14	18	24	30	33	38	48	52	61	71	77	88		
	博士(社会学)	7	1	6	1	3	3	5	6	8	4	7	6	10	6	5		
	博士(社会学)	7	8	14	15	18	21	26	32	40	44	51	57	67	73	78		
社会学	博士(社会学)	2	0	1	2	2												
	博士(社会心理学)	2	2	3	5													
	博士(社会情報学)		0	1	2													
	博士(社会学)		0	1	3													
経済学	博士(経済学)	3	11	6	7	13	7	6	14	10	6	9	12	19	6	14		
	博士(社会学)	3	14	20	27	40	47	53	67	77	83	92	104	123	129	143		
	博士(学術)	4	8	9	19	19	30	55	44	46	52	63	56	63	80	85		
	博士(理学)	4	12	21	40	59	89	144	188	234	286	349	405	468	548	633		
理工学	博士(理学)				6	7	1	2	2	18	18	18	18	18	18	18		
	博士(理学)	129	132	126	152	144	188	161	189	195	188	166	178	157	163			
	博士(工学)	129	261	387	539	683	871	1,032	1,221	1,416	1,614	1,802	1,968	2,146	2,303	2,466		
	博士(工学)	151	175	175	240	222	231	254	272	248	269	272	255	255	225	237		
農学	博士(学術)	151	326	501	741	963	1,194	1,448	1,720	1,968	2,237	2,509	2,764	3,051	3,276	3,513		
	博士(工学)		0	1	6	8	4	6	4	2	12	5	9	4	4	8		
	博士(理学)		0	1	7	15	19	25	29	31	43	48	57	61	65	73		
	博士(農学)	72	81	75	81	78	95	93	94	96	117	113	152	138	101	119		
生命科学	博士(農学)	72	153	228	309	387	482	575	669	765	882	995	1,147	1,285	1,386	1,505		
	博士(獣医学)	0	1	11	18	23	20	27	19	27	22	23	23	22	17	27		
	博士(医学)	39	48	42	67	62	92	101	134	137	170	153	151	157	165	174		
	博士(保健学)	39	87	129	196	258	350	451	585	722	892	1,045	1,196	1,353	1,518	1,692		
薬学	博士(保健学)	16	4	5	13	10	17	21	24	17	12	13	18	20	27	27		
	博士(薬学)	16	20	25	38	48	65	86	110	127	139	152	170	190	217	244		
	博士(薬学)	29	32	40	40	44	40	38	46	33	39	40	41	51	47	51		
	博士(薬理学)	29	61	101	141	185	225	263	309	342	381	421	462	513	560	611		
理学	博士(数理学)		12	16	11	24	27	21	14	35	24	27	26	19	15	24		
	博士(理学)		12	28	39	63	90	111	125	160	184	211	237	256	271	295		
	博士(理学)																	
	博士(生命科学)																	
新領域創成科学研究	博士(生命科学)																	
	博士(環境学)																	
	博士(国際協力学)																	
	博士(情報理工学)																	
情報理工学	博士(情報理工学)																	
	博士(学際情報学)																	
	博士(学際情報学)																	
	博士(学際情報学)																	
学術情報	合計	460	522	549	699	688	791	826	901	894	973	954	970	1,107	1,005	1,126		
	平成7年度に人文科学研究科と社会学研究科を統合し、人文社会科学研究科となった。	460	982	1,531	2,230	2,918	3,709	4,535	5,436	6,330	7,303	8,257	9,227	10,334	11,339	12,465		

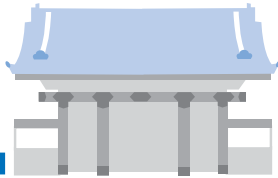
(注) 平成7年度に人文科学研究科と社会学研究科を統合し、人文社会科学研究科となった。

年度別学位授与状況(論文博士)

研究科	学位	平成																
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
人文社会科学	博士(文学)	13	11	13	11	14	18	20	18	12	13	23	13	8	11	17		
	当該年度	13	24	37	48	62	80	100	118	130	143	166	179	187	198	215		
	累計		1	1	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0		
研究科	博士(心理学)		1	2	2	4	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7		
	当該年度		1	2	2	4	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7		
	累計		1	3	5	9	14	19	25	31	38	45	52	59	66	73		
研究科	博士(社会学)					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	当該年度					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	累計					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
教育学	博士(教育学)	2	9	4	1	2	6	1	1	3	4	5	1	2	1	4		
	当該年度	2	11	15	16	18	24	25	26	29	33	38	39	41	42	46		
	累計		2	11	15	16	18	24	25	26	29	33	38	41	42	46		
法学	博士(法学)	1	2	2	3	0	6	1	1	1	2	1	3	4	2	5		
	当該年度	1	3	5	8	8	14	15	16	17	19	20	23	27	29	34		
	累計		1	4	9	17	25	40	56	72	91	111	134	161	188	222		
社会科学	博士(社会学)	6	1	1	1													
	当該年度	6	7	8	9													
	累計		6	14	23	32	41	50	59	68	77	86	95	104	113	122		
経済学	博士(経済学)	5	7	9	6	6	5	3	2	2	3	3	5	8	1	2		
	当該年度	5	12	21	27	33	38	41	43	45	48	51	56	64	65	67		
	累計		5	17	26	33	41	44	47	52	56	59	64	72	77	84		
総合文化学	博士(学術)	2	4	6	3	9	6	8	10	7	12	11	16	9	19	9		
	当該年度	2	6	12	15	24	30	38	48	55	67	78	94	103	122	131		
	累計		2	8	15	24	30	38	48	55	67	78	94	103	122	131		
理学	博士(理学)	34	46	53	44	36	45	36	36	33	22	25	20	14	13	15		
	当該年度	34	80	133	177	213	258	294	330	363	385	410	430	444	457	472		
	累計		34	80	133	177	213	258	294	330	363	385	410	430	444	457		
工学	博士(工学)	138	187	187	207	204	181	161	200	121	133	110	116	119	64	84		
	当該年度	138	325	512	719	923	1,104	1,265	1,465	1,586	1,719	1,829	1,945	2,064	2,128	2,212		
	累計		138	325	512	719	923	1,104	1,265	1,465	1,586	1,719	1,829	1,945	2,064	2,212		
農学	博士(農学)	83	107	98	84	105	71	52	59	49	62	42	64	76	46	55		
	当該年度	83	190	288	372	477	548	600	659	708	770	812	876	952	998	1,053		
	累計		83	190	288	372	477	548	600	659	708	770	812	876	952	998		
医学	博士(医学)	76	125	100	91	114	105	113	97	91	51	49	39	40	31	27		
	当該年度	76	201	301	392	506	611	724	821	912	963	1,012	1,051	1,091	1,122	1,149		
	累計		76	201	301	392	506	611	724	821	912	963	1,012	1,051	1,091	1,149		
薬学	博士(薬学)	1	6	7	2	8	7	8	5	9	6	3	14	6	4	5		
	当該年度	1	7	14	16	24	31	39	44	53	59	62	76	82	86	91		
	累計		1	7	14	16	24	31	39	44	53	59	62	76	82	86		
数理学	博士(数理学)	26	34	31	34	44	37	43	33	43	28	19	28	20	33	25		
	当該年度	26	60	91	125	169	206	249	282	325	353	372	400	420	453	478		
	累計		26	60	91	125	169	206	249	282	325	353	372	400	453	478		
新領域創成科学研究	博士(科学)		4	15	4	7	3	1	2	3	3	1	2	1	0	0		
	当該年度		4	19	23	30	33	34	36	39	42	43	45	46	46	46		
	累計		4	19	23	30	33	34	36	39	42	43	45	46	46	46		
情報理工学系	博士(情報工学)																	
	当該年度																	
	累計																	
総合計	当該年度	387	544	533	514	565	497	479	476	389	358	305	326	320	260	278		
	累計	387	931	1,464	1,978	2,543	3,040	3,519	3,995	4,384	4,742	5,047	5,373	5,693	5,953	6,231		

(注) 平成7年度に人文科学研究科と社会学研究科を統合し、人文社会学系研究科となった。

部局 ニュース



大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部



新入生歓迎会、外国人留学生等との懇談会を開催

5月11日（木）17：30から、山上会館1階談話ホールにて法学政治学研究科総合法政専攻の新入生歓迎会および法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生等との懇談会が開かれた。

例年この時期に開催されていた法学政治学研究科総合法政専攻の新入生歓迎会と、6月下旬に行われていた法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生等との懇談会を、本年度から合同で開催することになったものである。

ゲストの学生、客員教授、客員研究員、日本人学生チューター、教職員ら、総勢145名が出席し、非常に熱気あふれるパーティになった。



スピーチしてくれた3名

内田貴教授（法学政治学研究科総合法政専攻長）の司会進行で、高橋宏志法学政治学研究科長の挨拶、森田朗公共政策学教育部長による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、学生を代表して総合法政専攻修士課程1年生の山村岳央さんが、研究分野に絡めたスピーチを行った。次に、総合法政専攻博士課程1年生のメルバルト・デイヴィッドさん（チェコ出身）が、新入生歓迎会におけるスピーチの役割について話した。最後に、公共政策学教育部専門職学位課程2年生の張園園さん（中国出身）が、中国琴で中国の「漁州唱晩」という曲と「さくら さくら」の演奏を披露した。

普段は研究活動に忙しい学生たちだが、この日ばかりは教員や友人と大いに親睦を深め、和やかな雰囲気のか7時半に散会した。



張園園さんの中国琴演奏



大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部

留学生見学旅行を実施

5月18日（木）・19日（金）の2日間、法学政治学研究科・公共政策学教育部合同で留学生の伊東・熱海見学旅行を実施した。参加者は、留学生31名、引率の教職員4名の計35名であった。1日目は終日あいにくの雨模様、2日目は曇り空の旅となった。



「修善寺・虹の郷」で集合写真

9時に大型バスで本郷キャンパス正門前を出発し、修善寺で手打ちうどんを食べた後、修善寺・虹の郷に到着した。小雨が降りしき中、学生たちは日本庭園や伊豆の村を興味深く見学した。その後、宿泊地の伊東に向かい、ホテルに到着するとすぐにボーリング大会を行った。夕食後の懇親会では、ボーリング大会の表彰式を行い、その後チーム対抗のゲームで盛り上がった。さらに、母国の歌を披露する学生も出るなど盛会となった。

懇親会がお開きになると、まだ歌い足りない人、しゃべり足りない人は、部屋に集い、温泉を楽しみにしていた人は、浴衣に着替えて露天風呂に向かった。

翌朝は、9時にホテルを出発してMOA美術館を見学。



ボーリング大会の入賞者

黄金の茶室、能楽堂などの文化財や青々とした苔が美しい庭園を鑑賞し、十分に日本文化を堪能できた。その後、熱海商店街を30分ほど散策し、海に面した熱海マルエン観光センターで揚げたての天ぷら定食に舌鼓を打ってから帰路についた。予定より少し早い16時半に大学に到着し、全員笑顔で解散した。

参加者に印象に残ったことを尋ねると、温泉が圧倒的に多く、次に懇親会、ボーリング大会と続いた。日本の美しい自然と文化に触れ、共通の体験を通じて親睦も深まって、みな楽しく有意義な時間を過ごすことができた。



MOA美術館にて

大学院農学生命科学研究科・農学部

五月祭の木造ドーム

部局

農学部を中心とする弥生キャンパスの五月祭は新緑の中で静かな活気に満ち溢れて行われた。ここ数年、生物材料学専攻（農学部としては7類）では、学生によるオリジナル設計の建物を自主建設している。

昨年のアーチ構造物に続き、今年は見方によってはサッカーボールを組み合わせたようにも見えるドームが作られた。木材や木質材料を用いて新しい構造システムを考案し、かつ学生による自主建設可能なものという条件

での木質材料学研究室内のコンペの結果、博士課程1年の小林研治君の案が採用され施工されたものである。

材料は薄い合板、OSB（配向性ストランドボード：アメリカ合板協会から無償提供を得た）、角材、木ねじであり、今日ではDIYショップで容易に入手できるものばかりである。施工は小林君を棟梁として、社会人大学院「木造建築コース」に在籍するメンバーも加わり、さらに、建築学科の学生有志も参加し、家具製作を含めて、ものづくりの醍醐味と楽しさを十分に味わうことができたように思われる。



五月祭ドーム2006全景と建設メンバー

長方形の合板パネルの縦横は黄金比で構成され、OSBの5角形パネルと組み合わせで複雑なドームを形作っている。

学部の3、4年生は既に伝統になりつつある、炭火焼の焼鳥屋を運営、林産物の代表でもある椎茸焼きもメニューに加えられた。土日の2日間、正に、行列のできる焼鳥屋として繁盛を極めた。日曜日の夕方には充実した達成感を共有して美酒に酔ったことは言うまでもない。なお、昨年のアーチは雑誌「新建築」本年3月号に掲載され、稲山正弘助教授が解説しているので参照されたい。



木質材料学研究室の半纏

背中に江戸文字で「木」の一文字を染め抜いた半纏を新調

医科学研究所

東京大学—中国科学院連携研究室開所式を開催

部局

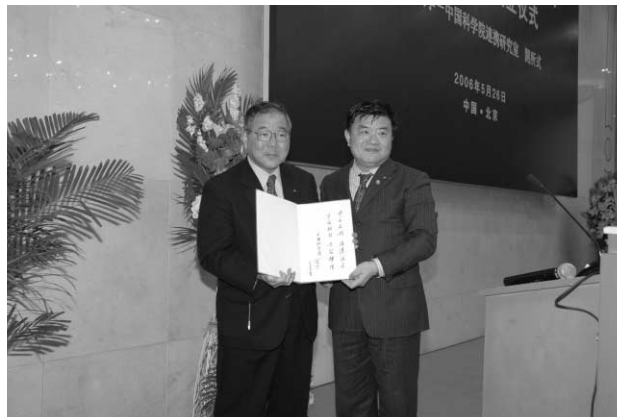
平成18年5月26日（金）、北京市の崑崙飯店・中央ホールにおいて「東京大学—中国科学院連携研究室開所式」を開催した。これは、文部科学省委託費：「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」における「中国との連携を基軸とした新興・再興感染症の研究（研究代表者：岩本愛吉医科学研究所教授）」で、中国科学院の協力のもと、医科学研究所が中国に海外拠点を設置したことを記念して行われたものである。

日本側来賓として、林幸秀文部科学審議官、西宮伸一在中国日本大使館公使、笹月健彦国立国際医療センター総長、井上直樹感染症研究ネットワーク支援センター副センター長他、中国側からは、陳竺中国科学院副院長、王宏広中国科技部中国生物技術発展中心主任、高福中国科学院微生物研究所長他、約50名に列席いただいた。東京大学からは、岡村定矩理事・副学長、山本雅医科学研究所長、岩本愛吉教授他、15名が参加した。



挨拶を行う岡村理事・副学長

開所式に先立ち、同ホールで、岩本教授の「アジアと感染症」と題した講演を含め、4名の日中研究者による記念講演を行った。続いて岩本教授の司会進行により開所式が行われた。はじめに山本所長が、本プログラムにおける医科学研究所と中国科学院生物物理研究所および微生物研究所の間のこれまでの取り組み、現在の様子、そしてそれを基にした感染症研究における日中協力体制の展望について語った。次に、連携研究室で研究する日中双方の研究者および、医科研北京プロジェクトオフィスの教職員が紹介された。さらに、林文部科学審議官、陳竺中国科学院副院長他、来賓の方々の祝辞を頂き、陳竺中国科学院副院長からは、本プロジェクトに寄せる直筆のメッセージが岩本教授へ手渡され、式典は盛会の内に幕を閉じた。



陳竺中国科学院副院長のメッセージを受け取る岩本教授



出席者による集合写真

ニュースページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

- **提出方法**
記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付して下さい。
- **提出先**
総務部広報課
E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
- **締切日**
原則として各月第1・3水曜日が原稿の締切日です（配布は翌々週の火曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認して下さい。
- **提出の際の留意事項**
学内専用ホームページに、提出の際の留意事項を掲載していますのでご覧下さい。
- **問い合わせ先**
総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線82032
E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

医科学研究所

第33回医科研創立記念シンポジウム
開催される

部局

今年で33回目となる医科研創立記念シンポジウムが6月1日（木）13時から医科学研究所講堂において開催された。

上述シンポジウムは、医科学研究所が昭和42年に伝染病研究所から改組されたのを記念して昭和49年より毎年6月1日前後に開催されてきた。



シンポジウム講演

今回は、本研究所が、基礎医科学研究から先端医療研究までを遂行実践する組織であることから、この分野で先進的研究を展開している所内の先生方とともに所外の先生方をお招きして「再生医療と幹細胞」というテーマに基づいてプログラムが構成された。

山本雅所長の開会の辞に引き続き、本研究所再生基礎医科学寄附研究部門の渡邊すみ子客員教授による「網膜発生機構の解明と再生をめざして」、同じく高次機能研究分野の中内啓光教授による「造血幹細胞の自己複製と冬眠を制御する機構」、京都大学再生医科学研究所再生誘導研究分野の山中伸弥教授による「核初期化による多能性幹細胞の樹立」、そして、理化学研究所神戸研究所発生・再生科学総合研究センター幹細胞研究グループの西川伸一グループディレクターによる「ES細胞研究を病気の治療へ」、最後に先端科学技術研究センターシステム生物医学の児玉龍彦教授による「血管内皮細胞の活性化のシステム生物医学」について、講演が行なわれた。

詳しい講演内容やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開しているのでご覧下さい。
(<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/index-j.html>)



講演を行う京都大学再生医学研究所 山中教授

講演会場の医科学研究所講堂は、所内外からの多くの参加者で満席となり、各講演を熱心に聴講し、各講演終了後の質疑応答も活発に行われ本研究所シンポジウムへの関心の高さが窺われた。

医科研シンポジウムに先立ち、前日の5月31日（水）13時30分から、講堂で医科研に所属する若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュ・トーク」（医科学研究所研究成果発表会）が昨年に引き続き開催され、若手研究者が熱心に研究の成果報告をおこなった。また、5月31日（水）～6月1日（木）の2日間アムジェンホールにてポスター発表会がフラッシュ・トークと連動する形式で行なわれた。



ポスター発表会表彰式

この創立記念のイベントには延べ300人が参加し、そして、68件のポスター発表の中から投票により最優秀ポスターが選ばれ、シンポジウム終了後の医科研恒例の野外パーティーにおいて表彰がなされた。

地震研究所

部局

南カリフォルニア地震センターと 学術交流協定を締結

太平洋プレートと北米プレートが陸上で“横ずれ”を起こし、1992年にランダース地震（M7.3）、1994年にノースリッジ地震（M6.7）が起きている米国カリフォルニア州は、日本と並び、世界で最も地震に関する観測と研究が進んでいる地域の一つである。地震研究所（大久保修平所長）は、6月1日、同州オクスナード市で、南カリフォルニア地震センター（Thomas H. Jordan所長）と、両機関の研究活動における交流・協力を促進するための協定を締結した。



学術交流協定に署名する地震研の大久保所長と
南カリフォルニア地震センターのジョーダン所長

同センターは、UCLAなどカリフォルニア大学各校、カリフォルニア工科大学、スタンフォード大学等の大学及び関連機関から構成されるコンソーシアムで、本部は南カリフォルニア大学に置かれている。1991年に創設され、国立科学財団と米国地質調査所の経費により、南カリフォルニアの地震に関する情報の収集とそれらの総合的研究、防災・減災のための情報発信等に取り組んでいる。

協定締結を記念し、6月1～3日には合同ワークショップが開かれ、日米を代表する地震研究者約40名が、地下構造探査から地震予知に至る幅広い分野で、最新の研究成果を報告した。大久保所長、平田副所長を含む地震研究所の7名と、全国共同利用研究所として地震研が招待した東工大などの研究者のほか、日本で教える米国人教授、米国で教える日本人教授らも参加し、地震学研究における両国の緊密さを示している。



地震研・南カリフォルニア地震センターの合同ワークショップ

今回締結された協定は、今後5年間に渡り、研究者の交流、共同研究の実施、会議やシンポジウムの共催、情報及び出版物の共有を推進するものである。同センターとは、過去にも個別の共同研究を行ってきたが、包括的な交流協定を結ぶのは、日本では地震研究所が初めてとなる。

医学部附属病院

部局

「鉄門」再建記念式典が行われる

医学部附属病院では、6月2日（金）14:00から、医学部及び附属病院の創立150周年記念事業の一環として再建を進めていた「鉄門」が完成したことにより、小宮山宏総長をはじめ、医学部鉄門倶楽部から織田敏次名誉教授、「鉄門」の門標をお書きいただいた松崎久子氏、地域を代表して龍岡町内会から小山内清孝会長ほか多数の関係者をお招きして、「鉄門」再建記念式典を挙行了した。

式典の開催にあたり、廣川信隆医学系研究科長より開式の辞として「鉄門」の名称の由来となった旧医学部本部棟の「表門」（後の鉄門）の歴史紹介と関係者への謝辞が述べられた。

また、永井良三病院長から今回の「鉄門」再建に至る経緯等及び門標の書をお書きいただいた松崎久子氏の紹介及び謝辞が述べられた。さらに小宮山宏総長からは、開かれた東京大学と未来に対する大学の発展を象徴する「鉄門」の再建について、鉄門倶楽部を代表して織田敏次名誉教授からは、「鉄門」の再建に対する謝辞と大学及び地域の益々の発展について御挨拶をいただいた。



テープカット



再建された「鉄門」

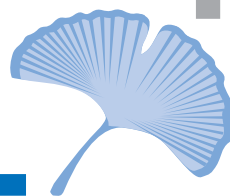
引き続き、除幕式とテープカットが行われ列席者からは盛大な拍手をいただいた。さらに、「紅しだれ」と「山桜」の花木が記念植樹された。(桜の木が選定された理由は、桜の木の花言葉は「良い教育」であり、また、品格と優雅さを併せ持ち大地にしっかりと根を張り、青空に向かって咲き誇る桜の姿は東京大学の新しい門である「鉄門」のイメージに最も相応しいため)



記念植樹

最後に「鉄門」をバックに全員で記念撮影が行われた。この「鉄門」が本学と社会との新たな架け橋となると共に、医学部並びに附属病院の更なる発展のシンボルとして存続することを祈念して、式典は終了した。

キャンパス ニュース



学生部



第58回東商戦（東京大学・一橋大学
対校競漕大会）開催される

4月30日、一橋大学との伝統のボートレースである東商戦が行われた。結果は、対校戦の勝敗を決める8人乗りの「エイト」で完勝したほか、他の8種目でも6勝2敗と勝ち越し、近年においては久しぶりの大勝であった。

昨年、東商戦で全敗を喫して以来、東大のなかで「打倒一橋」の気運が緩むことはなかった。新年度が始まってからも「東商戦全勝」を部の目標に掲げ、「臥薪嘗胆」を誓った。日頃のトレーニングはもちろん、メンタルトレーニング、食事、艇の扱い方にまで新たな試みが用いられては改良をされ、試行錯誤を繰り返した。特に冬場のトレーニングにおいては、昨年入部した大型新人の成長が著しく部内で対校レースのシートをかけた競争が激化し、結果として部全体の向上につながった。こうした1年の取り組みが東商戦の勝利に寄与したと思っている。



対校エイトにおける漕艇部クルーの力漕

東商戦当日応援に来てくださった、古田元夫副学長、学生部の方々、応援部の方々、学内の皆様、本当に有り難うございました。今後とも漕艇部の活動を見守ってくださると嬉しいです。なお東商戦の結果及び今後の漕艇部の活動予定は以下のとおりです。

(東京大学漕艇部 山田耕祐)

<東商戦結果（対校種目のみ）>

- ・対校エイト
- 東京大学（6'21"61）— ●一橋大学（6'26"21）
- ・対校フォア
- 東京大学（7'18"84）— ○一橋大学（7'14"47）
- ・対校シングルスカル
- 東京大学（8'08"79）— ●一橋大学（8'29"99）

<今後の漕艇部の活動>

- 6月8～11日 全日本選手権
- 6月17、18日 東日本大学選手権
- 7月7～9日 軽量級選手権
- 7月8日 京大戦
- 8月24～27日 全日本大学選手権
- 10月22～24日 全日本新人選手権
- 11月18日 総長杯争奪水上運動会



対校シングルスカルで力漕する勝田選手

学生部
五月祭開催される
キャンパス

第79回五月祭は、5月26日（金）午後の学内公開から始まり、5月27日（土）、28日（日）の一般公開と3日間にわたり、本郷キャンパスにて開催された。

一般公開日初日の5月27日（土）はあいにくの雨天であったが、28日（日）には天候も好転し、期間中の来場者は、両日合わせて約58,000人となり賑わいを見せた。

本年度は、テーマを“My Favorite May Festival”とし、五月祭に関わるすべての人に五月祭を好きになってもらおうとの趣旨のもと、講演会、研究成果の展示、音楽演奏、趣向を凝らした各種パフォーマンスや模擬店等、昨年を上回る369件の企画が参加した。



ダブルタッチ (D-act)

本年度は、2年ぶりに地文研究会天文部によるプラネタリウムが御殿下記念館ジムナジウムを会場に復活し来場者が長蛇の列を作るとともに、五月祭の企画を検索できる端末を設置した移動ネットカフェなどの新たな試みが加わった。大講堂においては、管弦楽や交響楽、合唱などの催しに加え東京大学法律相談所の主催による模擬裁判も披露され、各催しの熱演は注目を集めていた。一方、法25番教室で催された河村建夫元文部科学大臣も参加の「日本教育フォーラム」や平沼赳夫元経済産業大臣による特別講演も会場が満員になるほどの好評であった。

また、五月祭常任委員会では、今年もゴミの分別、リサイクルといった環境対策に積極的に取り組み、新たに環境局の自主企画として「エコプロジェクト展示ブース」を設け、五月祭におけるリサイクルへの取り組み状況をアピールするとともに、小池百合子環境大臣や小宮山宏総長等から寄せられたビデオメッセージを放映した。



移動ネットカフェの様子（東京サイコウ2006）

なお、来場者の投票による「メイフェスティバルアワード2006」には、模擬店部門では「歌う焼きそば屋 Tutti（東京大学音楽部コーラアカデミー）」、展示・実演・実験部門では「あなたのハテナをビックリに（物理工学科・計数工学科）」、グランドフェスティバル部門では、「M Kg's Solo Live (M.Kg)」、公演・音楽・パフォーマンスでは、「東京大学奇術愛好会」がそれぞれ選ばれた。

期間中、五月祭常任委員会は企画全体に目を配り、模擬店における食品衛生面や火災防止への注意等を怠らず、来場者の安全面や企画終了後の会場清掃等にも配慮した結果、大きな事故や苦情もなく、無事今年の祭を終えることができた。ご協力いただいた関係部局の皆様にご感謝申し上げます。



公開講座の様子（法文2号館）

調達本部です



第10回 「UT購買サイト」にアクセスを！

6月1日に開店したUT購買サイト、ID番号を登録しパスワードを取得した方々の中には既にアクセスされた方も多くと思います。各キャンパスで開催したシステム講習会では、納期や納品場所に関する質問もありましたが、やはり最大の関心は価格であろうかと思えます。

下の表は、13サプライヤのカタログに示された東大向け提供価格と、16年度あるいは17年度に実際に東大で購入された価格の比較表です。サイトのカタログ価格は、13のサプライヤの最低価格としましたが、特に価格差の大きなものを恣意的に選んだわけではありません。できるだけ正確な比較とするために、仕様の詳細なレベルまで完全一致する品目を探し当てることのできた事例の一部を掲げてあります。ただ、規格の変化の速いパソコンだけは、類似機種での比較となっています。（※）

まさに「物によりけり」ではありますが、3割を超える価格差のものもけっこう見られます。UT購買サイトの利用は、これまでの発注業務の事務手続きを変えることとなり、何かと煩瑣に感じられる方もおられるとは思いますが、これだけの価格差は十分な魅力といって差し支えないように思います。

UT購買サイトでの価格事例

商品名	従来購入価格(円)	UT購買サイト価格(円)	低減率
ホッチキス	1,008	710	30%
ホッチキス針	63	27	57%
ダブルクリップ	330	272	18%
カッターナイフ	252	178	29%
スティックのり	280	168	40%
マグネット	280	182	35%
油性マーカー	105	69	34%
水性マーカー	168	126	25%
蛍光ペン	84	52	38%
パイプ式ファイル	840	484	42%
リングファイル	400	190	53%
クリヤーファイル	560	384	31%
封筒(角2)	3,171	2,518	21%
名刺ホルダー	630	485	23%
トナーカートリッジ	15,300	12,839	16%
インクカートリッジ	3,150	2,750	13%
レーザートナーカートリッジ	23,625	20,040	15%
カラーコピー用紙	367	219	40%
アルカリ電池	512	384	25%
蛍光灯	7,750	2,030	74%
デスクトップパソコン※	154,260	128,430	17%
ノートパソコン※	212,580	184,290	13%

現在のところID番号の登録・パスワードの配付は500人ほどにとどまっており、発注権限をお持ちでありながらまだ未登録の方が多数おられるものとみられます。ぜひお早めにパスワードを取得のうえ、UT購買サイトで「安さ」を体験してみてください。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

ラグビー部

東大ラグビー部は現在、関東大学対抗戦の2部に所属しています。2002年に部員数の低下からチーム力が低下し、初の2部降格となってしまいましたが、近年は部員数も回復し、悲願の1部復帰を目指して、日々練習に励んでいます。

ラグビーは高校でも普及しており、推薦制度のない東大が、強豪校に勝利するのが難しいのは事実です。しかし、東大ラグビー部が長い歴史の中で、常にそういった強豪に挑戦し、時として勝利をおさめてきたのもまた事実です。そういった伝統を我々は誇りに思っています。

ラグビーというスポーツはなじみのない方には荒っぽく、危険に見えるかもしれません。確かに怪我が多いのは事実です。しかし、それは勝つために、仲間の為に、体をはった結果であり、そこには大きな満足感が存在します。危険だろうと体を張って戦い、そして勝つ。それがラグビーのおおきな魅力なのです。

東大ラグビー部にはそんなラグビーに魅了された人間が集まり、日々努力を重ねています。もちろん、苦しいことも悩むこともあります。この熱いスポーツには人を熱中させ、成長させてくれるものがあるのです。

(ラグビー部 日浦進吾)



★★DATA★★

創立：大正10(1921)年
 部員数：50名(女子マネージャー10名は除く)
 練習場所：駒場ラグビー場
 練習日：火、水、木、金、土、日
 年間予定：1-3月 オフ練、勧誘活動
 4-6月 春シーズン
 定期戦(立教大、ソウル大、
 東北大、慶応大、九州大、防衛大)
 春合宿(@検見川)
 その他 O B戦、一橋1年試合
 7月 オフ練
 8月 夏合宿(@東大山中寮、菅平)
 9月-11月 対抗戦
 12月 定期戦(名古屋大学、京都大学)
 活動実績：関東大学対抗戦2部4位(2005年)
 部長：青山 和浩
 監督：三笠 杉彦
 HP：http://www.turfc.com/

フェンシング部

フェンシングは、もともとは西洋で騎士に始まり、後に貴族のスポーツとなった、第1回オリンピックから正式種目である世界的に人気のあるスポーツです。日本においてはマイナースポーツではあるものの、徐々に広がっていき各地で行われるようになってきて、世界の舞台でも昨年ユニバーシアードで優勝したりして、日本のレベルもかなり上がってきています。

フェンシングにはフルレ・エペ・サーブルの3種目があり、ルールは簡単にいうと、細長いピストと呼ばれるところで、片手に剣を持ち相手よりも早く突く、というものです。実際の試合では、相手との駆け引きや激しい剣の応酬が見どころの1つです。

東大フェンシング部では、他大学と同じく大学から始める人も多く、今までやったことのない人もやってみればきっと楽しめるスポーツだと思います。また、リーグ戦・関カレを始め、春(6月)と秋(11月)には関東国公立戦、夏には七帝戦・全国国公立戦が行われ、部員が多くないのですぐに試合にも出られます。こういった試合を通して、東京外大や東工大といった関東の国公立大学や京大・東北大など全国各地にフェンシング友達ができます。

フェンシングに少しでも興味がある方、大学に入って何かやりたいと思っている方はぜひ一度練習を見に来てください。

(フェンシング部 西田智哉)



★★DATA★★

創立：昭和45(1970)年
 部員数：7人(院生含む)
 練習場所：駒場地区第一体育館
 本郷地区御殿下記念館(金曜)
 練習日：火・木・金・土
 年間予定：4月 リーグ戦
 6月 関東国公立戦
 8月 七帝戦・全国国公立戦
 9月 夏合宿
 10月 関カレ
 11月 京大戦、関東国公立戦
 3月 春合宿
 活動実績：七帝戦5位
 関東国公立戦個人フルレ、
 エペの部優勝 西田
 部長：木村 薫(大学院新領域創成科学研究科 教授)
 監督：窪田 進
 HP：http://www.utfc.info/

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

男女共同参画室

日本学術会議主催公開講演会の開催について

来る7月8日(土)に日本学術会議主催公開講演会「身体・性差・ジェンダー —生物学とジェンダー学の対話—」が開催されます。

公開講演会には本学男女共同参画室も後援し、本学関係者が複数登壇しますので、ぜひご来場ください。

日本学術会議主催公開講演会

「身体・性差・ジェンダー —生物学とジェンダー学の対話—」

- 日時：7月8日(土) 12:30～17:30
- 会場：日本学術会議講堂(定員250名・参加費無料)

●プログラム

12:30～ 開会・メッセージ

黒川 清(日本学術会議会長)
猪口 邦子(内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)、日本学術会議会員)(依頼中)
江原由美子(首都大学東京都市教養学部教授、日本学術会議会員、学術とジェンダー委員会委員長)
＜総司会＞
後藤 俊夫(中部大学学監、日本学術会議会員、学術とジェンダー委員会副委員長)

＜コーディネーター＞

大沢 真理(東京大学社会科学研究所教授、日本学術会議会員)

12:50～ 講演

原 ひろ子(城西国際大学大学院人文科学研究科客員教授、日本学術会議連携会員)

「男女共同参画社会の実現と学術の役割」

上野千鶴子(東京大学大学院人文社会系研究科教授、日本学術会議会員)

「ジェンダー概念の意義と効果」

東村 博子(名古屋大学大学院生命農学研究科助教授、日本学術会議特任連携会員)

「女と男はどう違う?—生物学視点から—」

大内 尉義(東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議連携会員)

「性差医療の可能性」

井谷 恵子(京都教育大学教育学部教授、日本学術会議特任連携会員)

「ジェンダー研究からみた体育・スポーツの可能性と課題」

15:05～ 質疑・討論

＜ディスカッサント＞

五十嵐 隆(東京大学大学院医学系研究科教授、日本学術会議会員)

加賀谷淳子(日本女子体育大学客員教授、日本学術会議会員)

黒田 公美(理化学研究所脳科学総合研究センター基盤科学特別研究員)

竹村 和子(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授、日本学術会議連携会員)

長谷川真理子(総合研究大学院大学教授、日本学術会議連携会員)

松田 昌子(山口大学医学部教授)

17:30～ 閉会挨拶

辻村みよ子(東北大学大学院法学研究科教授、日本学術会議会員、男女共同参画分科会委員長)

(プログラムは一部変更になる場合があります。)

●申込方法：

はがき、FAXまたはE-mailにて必要事項をご記入の上、公開講演会担当宛にお申し込みください。

●必要事項：

氏名(ふりがな)・年齢・職業・連絡先電話番号・E-mailアドレス

●お問い合わせ先：

日本学術会議事務局企画課公開講演会担当

TEL 03-3403-1906 FAX 03-3403-6224

E-mail: info@scj.go.jp

URL: http://www.scj.go.jp

「地域主義比較プロジェクト国際会議」 開催のお知らせ

社会科学研究所は全所的プロジェクト研究「地域主義比較プロジェクト」の国際会議を下記の次第で開催致します。

「地域主義比較プロジェクト」は、ヨーロッパ、南北アメリカ、そして東アジアで興隆してきた地域主義について、法学・政治学・経済学の各視座から、それぞれ三地域の地域主義を分析し、とりわけ東アジアについて、今後の制度化の見通しを理論的・実証的に検討することを目指しています。特に今回の国際会議では、地域主義の現状比較を総合的に行い、東アジアの地域主義の特徴を比較の中からつかむことを主たる目的としています。

2006年CREP国際会議「比較の中の東アジア地域主義 The Dynamics of East Asian Regionalism in Comparative Perspective—Private-led Regionalism?」

- 日時：7月15日（土）13：30～17：30
7月16日（日）9：00～18：00
- 会場：本学 小柴ホール（理学部1号館）
- 入場料：無料
- 使用言語：英語

◇プログラム

7月15日（土）

Session 1: Economics of Regionalism

7月16日（日）

Session 2: Legal and Institutional Frameworks of Regionalism

Session 3: Political Economy of Regionalism

Session 4: East Asian Regionalism: Challenges and Prospects

◇お申し込み・お問い合わせ

電話、FAX、メールで事前登録をお願いします。

社会科学研究所 CREP事務局

<http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj06.htm>

（申込用紙配布中）

TEL: 03-5841-4874 / FAX: 03-5841-4905

E-mail: crep@iss.u-tokyo.ac.jp

「ナノフォトンクス総合的展開—拡がりと深化—」シンポジウム開催のお知らせ

（独）NEDO技術開発機構の新施策「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開（NEDO特別講座）」により、「ナノフォトンクス総合的展開」プロジェクト（平成23年3月までの時限）の発足を記念いたしましてシンポジウムを開催いたします。

- 日時：8月1日（火）
13：30～18：00（開場 13：00）
- 会場：武田先端知ビル5F「武田ホール」
- 参加費：無料
- 参加方法：問い合わせ先のホームページを参照

<プログラム>

- ・来賓挨拶
経済産業省
工学系研究科長 松本 洋一郎
（独）NEDO技術開発機構 理事 佐々木 宜彦
- ・ナノフォトンクス —拡がりと深化—
大津元一（東京大学）
- ・ナノフォトンクスを支える分光分析の最先端
成田貴人（日本分光（株））
- ・ナノフォトンクスからリソグラフィへ—微細加工の
ブレイクスルー—
黒田 亮（キヤノン（株））
- ・ナノフォトンクスが切り拓く大容量光ストレージ
西田哲也（（株）日立製作所）
- ・ナノフォトンクスによる光機能部材のイノベーション
（仮題）
- ・ナノフォトンクスが問う光科学の基礎問題
堀 裕和（山梨大学）
- ・光近接場相互作用ではじまる光情報通信の新展開
成瀬 誠（情報通信研究機構・東京大学）
- ・ナノフォトンクス分野別個別相談会
- ・「ナノフォトンクス総合的展開：産学連携・人材育成プログラム」のご紹介

●問い合わせ先：

ナノフォトンクス総合的展開事務局 担当：内山

TEL：03-5841-1670 FAX：03-5841-1140

E-mail：symposium@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp

URL：<http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/symposium/>

募集

募集

AGS推進室

平成18年度東京大学AGS研究会研究課題の募集

東京大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、スイス連邦工科大学、チャルマーズ工科大学によるAGS（Alliance for Global Sustainability：人間地球圏の存続を求める大学間国際学術協力）はスタートから10年を経過し、今年2006年より第3期活動に入りました。第3期において、各大学が地域の活動により一層力を入れるという方針のもと、東京大学AGS研究会ではこれまで以上にアジアでの活動を推進し、取り分け中国、韓国、東南アジア諸国、インドでの取り組みを強化し、これらの国を代表する大学・研究機関との連携（Alliance for Sustainable Asia/ASA）を推進していく方針です。

このたび東京大学AGS研究会では、平成18年度の研究課題を募集いたします。昨年度と同様に、アジアを視点に置きながら、Full Project については、AGSの重点分野である水、食糧、エネルギー、Mobility、リスクマネジメントなどに関する研究課題の他に、新しい展開として持続可能性を支える文化の多様性や持続可能な社会とGenderの役割などの新しい研究課題についても研究基金を配分いたします。また、将来重要性が期待されるSeed的な研究課題 Seed Projectについても研究基金を用意いたします。是非、新しいアイデアに基づいた研究課題の提案をお願い致します。

1. 研究課題応募に際しての留意点

- 1) Sustainabilityに関する研究プロジェクトとして採択されることを目指す研究であることが重要である。
- 2) 学際性、国際性、社会連携（注1）のいずれか一つ以上を満たすものであることが必須条件となる。
- 3) 研究課題用の応募用紙を用いる（項目2を参照）。
- 4) 一件当たりFull Projectは年間200万円以内、Seed Projectは50万円の研究助成基金を配分する予定。
- 5) 研究代表者は本学教員であることが必須ですが、共同研究者として研究員、大学院生が参画できます。
- 6) 海外で実施されるAGS年次総会、Technical MeetingやAGSが関与する会議で重要とみとめられた会議に参加する場合の旅費は別途予算として計上準備する予定ですので、本年度の研究課題申請の際には上記会議への参加費用の計上は必要ありません。

（注1）社会連携：技術や制度の社会における実践・普及を念頭に置き、研究プロジェクトにおいて社会の様々な関係者と連携すること。

2. 応募ご希望の方は応募用紙をお送りいたしますので下記まで連絡をください。
3. 応募用紙にご記入の上、7月7日（金）までにE-mailでご提出をお願いいたします。提出期限までに十分な期間がなく申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

●応募用紙依頼、課題申請書の提出、問合せ先

浅尾 修一郎

東京大学AGS推進室

内線：27937

E-mail：asao@ir3s.u-tokyo.ac.jp

平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1339	6月21日（水）	6月28日（水）	7月4日（火）
1340	7月5日（水）	7月12日（水）	7月19日（水）
1341	7月19日（水）	7月26日（水）	8月1日（火）
1342	9月6日（水）	9月13日（水）	9月20日（水）
1343	9月20日（水）	9月27日（水）	10月3日（火）
1344	10月4日（水）	10月11日（水）	10月18日（水）
1345	10月18日（水）	10月25日（水）	10月31日（火）
1346	10月31日（火）	11月8日（水）	11月14日（火）
1347	11月15日（水）	11月22日（水）	11月29日（水）
1348	学生生活実態調査特集号（予定）		
1349	12月6日（水）	12月13日（水）	12月19日（火）
1350	1月10日（水）	1月17日（水）	1月23日（火）
1351	1月24日（水）	1月31日（水）	2月6日（火）
1352	2月7日（水）	2月14日（水）	2月21日（水）
1353	2月21日（水）	2月28日（水）	3月6日（火）
1354	3月7日（水）	3月14日（水）	3月20日（火）

お知らせ

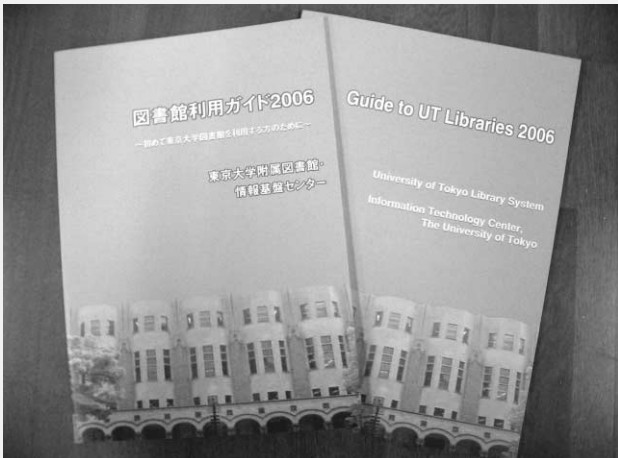
お知らせ

附属図書館・情報基盤センター図書館電子化部門

『図書館利用ガイド2006』日本語版・英語版を配布中！

附属図書館及び情報基盤センター図書館電子化部門では、『図書館利用ガイド2006～初めて東京大学図書館を利用する方のために～』の日本語版・英語版を作成しました。『図書館利用ガイド2006』は、学内に多数ある図書館（室）の概要やそのサービス、コンピュータの利用、電子ジャーナル・データベースをはじめとするさまざまな学術情報の入手法など、学習・研究に役立つ情報がぎっしり詰まったガイドです。

今年度は、留学生の皆さんや海外からの研究者の方のために英語版『Guide to UT Libraries 2006』も作成しました。併せてご活用ください。利用ガイドは新入生ガイダンスなどで配布したほか、総合図書館・駒場図書館・柏図書館でも配布しています。ご希望の方はお近くの図書館（室）へお問い合わせください。



『図書館利用ガイド』表紙（日・英）

～東京大学附属図書館早わかり～

1 資料を探す前に：知っていることと戸惑わない

2 図書館・雑誌を探す

3 インターネットで雑誌論文・図書を読む

4 各種オンラインサービスを利用する

5 東京大学以外の図書館を利用する

東京大学附属図書館早わかり

東京大学附属図書館早わかり

お知らせ

総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第494（6月7日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。第494(6月7日)号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

跡見順子：からだを科学的実習的に理解し自分（人間）に取り戻す教育

石橋 純：駒場発スペイン語の新標準『ディメロ』 ネット活用で学習サポート

〈本郷各学部案内・2〉

松島 斉：経済学の「科学の作法」——今と未来

金子元久：教育学部 三つの「教育」

岩澤康裕：理学部への進学を考える皆さんへ

生源寺眞一：農学のミッション

三浦正幸：薬学部紹介 分子を共通言語にした総合生命科学の拠点

〈本の棚〉

里見大作：坂本真士・丹野義彦・大野裕編

『抑うつ心の臨床心理学——叢書 実証にもとづく臨床心理学』ヘルプ！

岩本通弥：佐藤俊樹著

『桜が創った「日本」——ソメイヨシノ起源への旅』

〈時に沿って〉

高橋英海：よい子の皆さんは……

木村忠正：Le Bateau Ivre 「酔いどれ船」



お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

7月は、夏休み前におすすめのコースもご用意しました。この機会に、ぜひご参加ください。

東京大学にご所属であれば学生・教職員を問わずどなたでも参加できます。

●会場（全コース共通）

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
(定員12名) 予約不要です。

●コース概要

<<テーマ別ガイダンス>>

1つのテーマについて、検索実習をまじえながら解説するコースです。

■自宅から検索するには？（60分）

自宅や帰省先、海外からも利用できるデータベースなどを紹介します。通常は学内からのみ利用可能なデータベース・電子ジャーナルについても、手続きをして学外から利用できるサービスがあります。

また、帰省先や海外で図書館を利用したい方には、他大学等の図書館を利用する際の手続き・注意点を説明します。夏休み前におすすめのコースです。

■電子ジャーナルを利用するには？（60分）

電子ジャーナルを利用すると、読みたい論文をネットですばやく入手できます。

電子ジャーナルにアクセスする方法や、代表的な出版社の電子ジャーナルサイトを例にとって実際の利用方法を解説します。

<<データベースユーザトレーニング>>

特定のデータベースについて、検索実習をまじえながら解説するコースです。

■FELIX と CiNii（60分）

FELIX（フェリックス）は日本語論文（雑誌記事索引）、欧文の論文（SwetScan）、人文社会科学系の欧文の論文（PCI）を検索できる、目次情報検索システムです。CiNii（サイニイ）は国内の論文、学協会誌、大学の研究紀要を中心とした論文情報データベースで、一部のデータは本文にリンクしています。

<<Database User Training(English Session)>>

■ Electronic Journals Course

7/10（月）15:00～16:00

This course covers the fundamental aspects involved when consulting electronic journals. Explanations about the search functions of publishers such as ScienceDirect, SpringerLink and WileyInterScience can be tailored to include examples in your specific field of research.

詳細は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

なお、7/4（火）15:00～16:30に、駒場図書館でSciFinder Scholar（応用編）のコースを開催します（上記サイトから事前に予約してください）。

●問い合わせ 学術情報リテラシー係（22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

（情報基盤センター）

●7月のスケジュール

月	火	水	木	金
7/3	7/4	7/5	7/6 15:00-16:00 自宅から 検索するには？	7/7
7/10 ※English Session 15:00-16:00 Electronic Journals	7/11	7/12 11:00-12:00 自宅から 検索するには？ (7/6と同内容)	7/13	7/14
7/17	7/18 11:00-12:00 電子ジャーナルを利用するには？	7/19	7/20	7/21 15:00-16:00 FELIX とCiNii

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
18.5.31	後藤 敬	辞 職（東京工業大学大学院理工学研究科助教授）	大学院理学系研究科助教授
18.5.31	牧野淳一郎	辞 職（自然科学研究機構国立天文台教授）	大学院理学系研究科助教授
（採 用）			
18.6.1	布浦鉄兵	環境安全研究センター助教授	
（昇 任）			
18.5.16	金原 数	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.6.1	鴨下顕彦	アジア生物資源環境研究センター助教授	大学院農学生命科学研究科附属農場助手
18.6.1	嶋作一大	大学院理学系研究科助教授	大学院理学系研究科助手
18.6.1	木南 章	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
18.6.1	中山裕之	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
18.6.1	西村亮平	大学院農学生命科学研究科附属家畜病院教授	大学院農学生命科学研究科助教授
18.6.1	松本雄二	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
18.6.1	富田泰輔	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
（配 置 換）			
18.5.16	安達 毅	環境安全研究センター助教授	生産技術研究所助教授
18.6.1	酒井 秀夫	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



ご意見・ご感想投稿大募集！

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属 ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル（20字以内） ⑤本文（300字以内）

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください（⑤はなし）。

ニューズページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

なお、「提出の際の留意事項」によらない原稿については、掲載ができないというのではなく、編集段階において適宜修正の上、掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. **提出方法** 記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。
2. **提出先** 総務部広報課 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
3. **締切日** 原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。
ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html（トップページ>広報・情報公開>学内広報）
4. **提出の際の留意事項**
 - (1) **文字数** 文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。
 - (2) **写真**
 - ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
 - ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
 - ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。
 - (3) **書式**
 - ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
 - ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
 - ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。
 - (4) **文章表現のきまり**
 - ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
 - ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
 - ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「,」「.」は用いない）。
 - ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
 - ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。
5. **問い合わせ先**
総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線22031 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第32回ビジネスローセンター公開講座	6月22日(木) 13:30~	法学部25番教室	東京大学ビジネスローセンター (BLC) http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebclc/
東文研セミナー 「米・砂糖・コーヒーから見た現代アジア経済史」	6月22日(木) 15:00~	史料編纂所演習室(212号室)	東洋文化研究所 加納啓良 電話: 03-5841-5863 E-mail hkano@ioc.u-tokyo.ac.jp
山内昌之教授紫綬褒章受章記念講演会 「中東国際関係史の構図—帝国の解体」	6月23日(金) 16:30~	数理科学研究科棟大講義室	http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/kouen20060623.html
第30回 東京大学農学部公開セミナー 「農学の未来」 ※1337号参照	6月24日(土) 13:30~	農学部 弥生講堂一条ホール	農学系総務課 広報情報処理係 電話 03-5841-5484、8179 mail koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
GIS講習会「応用コース: データ作成」(学内限定)	6月29日(木)	柏キャンパス総合研究棟 4階470号室	空間情報科学研究センター GIS講習会 担当 古橋 training@csis.u-tokyo.ac.jp http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/training/
東文研定例研究会 春秋三伝婚姻記事の比較研究試論	7月6日(木) 14:00~	赤門総合研究棟 地下1階 第2演習室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
公開講演会 身体・性差・ジェンダー— 生物学とジェンダー学の対話— ※31ページ参照	7月8日(土) 12:30~	日本学術会議講堂	日本学術会議事務局企画課公開講演会担当 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34 TEL: 03-3403-1906 FAX: 03-3403-6224 E-mail: info@scj.go.jp URL: http://www.scj.go.jp
国際シンポジウム From Genes to Cognition. —遺伝子から認知へ—	7月14日(金) 13:00~	医学部 教育研究棟13階第6セミナー室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
海洋研究所中野地区一般公開	7月15日(土) 12:00~	海洋研究所	海洋研究所 電話 03-5351-6342 (代表) http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2006/ 平松一彦助教授 khiramatsu@ori.u-tokyo.ac.jp
2006年CREP国際会議—「比較の中の東アジア地域主義」※32ページ参照	7月15日(土) 13:30~ 7月16日(日) 9:00~	本郷キャンパス 小柴ホール (理学部一号館)	社会科学研究所 CREP事務局 TEL: 03-5841-4974 FAX: 03-5841-4905 E-mail: crep@iss.u-tokyo.ac.jp http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj06.htm
海洋研究所大塚地区一般公開	7月17日(月) 10:00~(海の日)	国際沿岸海洋研究センター	海洋研究所 電話 03-5351-6342 (代表) http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2006/ 平松一彦助教授 khiramatsu@ori.u-tokyo.ac.jp
東文研ワークショップ 日本近世貨幣史の再検討	7月21日(金) 10:00~	山上会館 001号室(地階)	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 黒田明伸 kuroda@ioc.u-tokyo.ac.jp
国際シンポジウム Frontiers of Human Brain Imaging. —脳画像最前線—	7月24日(月) 13:00~	医学部 教育研究棟13階第6セミナー室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
日独学生交流セミナー2006	募集期限: 7月31日 開催日: 9月7日~22日	東京とその周辺	幸田 薫 教授 koda@boz.c.u-tokyo.ac.jp http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/nichidoku/boshu06.htm
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
総合研究博物館小石川分館 常設展示「驚異の部屋—The Chambers of Curiosities」	3月9日(木)~	総合研究博物館小石川分館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/annex/
第33回生研イブニングセミナー 「情報エレクトロニクスの基礎と応用」	4月14日(金)~6月30日(金)18:00~(5月5日、5月26日、6月2日を除く各金曜日)	生産技術研究所 総合研究実験棟 (An棟)	生産技術研究所 総務課広報企画係 TEL:03 (5452) 6017~8 FAX 03 (5452) 6073 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
駒場博物館特別展 「聖書に生きる一トローラーの成立からユダヤ教へ」 ※1337号参照	5月25日(水)~7月23日(日)10:00~18:00 開館毎週火曜日 休館	駒場博物館1階 美術博物館展示室	問い合わせ先: 駒場博物館 TEL:03-5454-6139 FAX:03-5454-4929 HP: http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/2006.html
高校生のための金曜特別講座 (夏学期)	4月14日(金) ~7月7日(金)	教養学部 11号館 2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
法学部連続講演会「高齢化社会と法」 ※1334号参照	5月13日(土) 6月17日(土) 7月15日(土)	法学政治学系総合教育棟101教室 (通称: 法科大学院ガラス棟)	e-mail: icclpbic@j.u-tokyo.ac.jp FAX: 03-5805-7143

Contents

特別記事

- 02 「バリアフリーの東京大学」の実現に向けて（Ⅱ）

NEWS

一般ニュース

- 07 第104回東京大学公開講座「人口」を開催
- 08 平成18年度（前期）東京大学学術研究活動等奨励事業（国外）の採択決まる
- 08 「東京大学外国人留学生特別奨学制度（東京大学フェローシップ）平成18年度研究奨励費受給者証書授与式」を開催
- 09 知の創造的摩擦プロジェクト第2回交流会「現役東大生×卒業生」を開催
- 10 平成18年5月1日現在の学生数
一学部学生14,471人、大学院学生13,600人、
研究生等726人
- 12 大学院関係統計

部局ニュース

- 22 新入生歓迎会、外国人留学生等との懇談会を開催
- 22 留学生見学旅行を実施
- 23 五月祭の木造ドーム
- 24 東京大学－中国科学院連携研究室開所式を開催
- 25 第33回医科研創立記念シンポジウム開催される
- 26 南カリフォルニア地震センターと学術交流協定を締結
- 26 「鉄門」再建記念式典が行われる

キャンパスニュース

- 27 第58回東商戦（東京大学・一橋大学対校競漕大会）開催される
- 28 五月祭開催される

コラム

- 29 調達本部です 第10回
- 30 Flags運動部紹介 No.16

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 31 日本学術会議主催公開講演会の開催について
- 32 「地域主義比較プロジェクト国際会議」開催のお知らせ
- 32 「ナノフォトンクス総合的展開－拡がりと深化－」シンポジウム開催のお知らせ

募集

- 33 平成18年度東京大学AGS研究会研究課題の募集

お知らせ

- 34 「図書館利用ガイド2006」日本語版・英語版を配布中！
- 34 「教養学部報」第494（6月7日）号の発行－教員による、学生のための学内新聞－
- 35 “情報探索ガイダンス”各種コース開催のお知らせ

事務連絡

- 36 人事異動（教員）

38 EVENT LIST

淡青評論

- 40 ハエの眼

◆ 表紙写真 ◆

環境整備チームと談笑する小宮山総長
（2ページに関連記事）

編集後記

今回の表紙は「環境整備チームと総長が清掃後にひとやすみ」の図。特別記事でご紹介した通り、先日、環境整備チームは総長を表敬訪問しました。最初、チーム員の皆さんはやや緊張感みでしたが、やがてなごやかに総長と歓談。総長は普段からキャンパス内の草むしりをしていらっしゃるようで、積極的に清掃に参加してくださいました。「バリアフリーの東京大学」の実現に向けて……学内広報も、微力ながらお力添えしたいと思います。（し）



七徳堂鬼瓦

ハエの眼

ショウジョウバエの眼の発生において、網膜を形成する細胞の分化は、前後軸に沿って後ろから掃靡する形態形成溝（morphogenetic furrow）の通過が引き金になって起こるそうだ。あたかも、北上する春の前線が花を咲かせていくように。この時、形態形成溝の通過に反応して、全ての細胞が同時に分化を始めるのではないのが面白い。最初に光受容体細胞へ分化を始めるR8細胞はごく少数派で、一層の未分化上皮細胞の中に点在してお互いにその存在を知らない。光受容体への分化モードに入ったR8細胞は、隣接する細胞の分化を促し、周囲の約半数の細胞が異なる役割を受け持つ光受容体細胞に変わっていく。他の細胞は神経細胞への分化誘導を受けず、レンズ細胞への道を辿る。こうして1個のR8細胞がつくった細胞のクラスターは個眼を形成する。そして、夥しい個眼が複眼となり、それまで同士の存在を知らなかった光受容体は、共同して世界を映す視覚を結像する。しかしその結像は、光受容体への分化を拒んでレンズ細胞への道を歩んだ半数の細胞、そしてそれらを取りまく様々な支持細胞なくしては得られないのだ。

人間の歴史を振り返ってみると、地球上のあちこちで生まれた多様な文明は、殺戮を繰り返しながらもその建設的な交流によって成熟を遂げてきた。もしこれからの国際社会がその眼に美しい地球を結像し続けることができるのであれば、それは多様な価値観の尊重と協力によってはじめてなしうることであろう。顕微鏡下でやっと見える小動物の発生の一場面は、我々の社会を鏡のように映し出しているように見える。

(大学院医学系研究科 栗原裕基)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1338 2006年6月14日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>